

Patsnap Eureka と 日本の特許 AI 5 サービスの 機能・技術比較

サマリア (Summaria) / Tokkyo.Ai / Patentfield AIR
Genzo AI / AI Samurai

調査日：2026 年 8 月 9 日（第 2 版 – Patentfield AIR 追加、Tokkyo.Ai 情報更新）
評価の重点：機能・技術（AI 検索精度 / 対応言語 / データベース範囲 / AI エージェント機能）
情報源：各社公式サイト、プレスリリース、報道、提供資料（PatSnap Japan ブログ）

Claude Opus 5

目次

目次.....	2
エグゼクティブサマリー.....	5
主要な結論.....	5
1. 「AI エージェント」を標榜するのは 6 社中 4 社。ただし実装の中身はまったく異なる	5
2. データ基盤は Patsnap が突出。ただし Patentfield が唯一、具体的な収録件数と遡及範囲を公表して いる	5
3. 「独自の特許特化モデル」を持つのは Patsnap と Patentfield の 2 社	5
4. 精度指標は依然として横並び比較が成立しない	5
5. 情報開示の透明性はサマリアと Patentfield が高く、Tokkyo.Ai が最も低い	6
6. 業界内で特許権侵害訴訟が起きていた – サマリア対 Patentfield	6
比較の全体像（要約表）	6
第 1 章 調査の背景・対象・方法	8
1.1 背景	8
1.2 調査対象.....	8
1.3 評価の重点と方法	9
1.3.1 情報源.....	9
1.3.2 本調査の限界	9
第 2 章 評価フレームワーク – 「AI エージェント」をどう測るか.....	10
2.1 AI ツールと AI エージェントの境界.....	10
2.2 精度指標の扱い方	10
第 3 章 各サービスの詳細	12
3.1 Patsnap Eureka	12
3.1.1 提供体制.....	12
3.1.2 製品構成 – 4 ドメイン × エージェント群	12
3.1.3 主要ワークフロー	13
3.1.4 AI 技術 – PatsnapGPT	13
3.1.5 データ基盤	13
3.1.6 対応言語 – 日本市場での最大の論点	14
3.1.7 料金.....	14
3.1.8 セキュリティと API.....	14
3.1.9 日本市場での実績	15
3.1.10 直近の動向（2025～2026 年）	15
3.2 サマリア（Summario）	16
3.2.1 提供体制.....	16
3.2.2 機能構成.....	16
3.2.3 AI 技術.....	16
3.2.4 AI エージェント機能	17
3.2.5 データベース・言語・出力	17
3.2.6 料金.....	17
3.2.7 実績・セキュリティ	18

3.3 Tokkyo.Ai	19
3.3.1 提供体制 – 運営会社の商号変更にご注意	19
3.3.2 製品ラインナップ	19
3.3.3 機能	19
3.3.4 AI エージェント機能 – MyTokkyo.Ai とディープエージェント方式	20
3.3.5 AI 技術	20
3.3.6 データベース・言語・出力	20
3.3.7 料金	21
3.3.8 実績・セキュリティ	21
3.4 Patentfield AIR	23
3.4.1 提供体制	23
3.4.2 製品構成 – プラットフォーム本体とオプション	23
3.4.3 Patentfield AIR の機能	24
3.4.4 AI 技術 – 2 つのシステムを区別する	24
3.4.5 公表されている精度・効率指標	25
3.4.6 AI エージェント機能の位置づけ	25
3.4.7 データ基盤 – 6 社中で最も透明性が高い	25
3.4.8 対応言語・出力・料金	26
3.4.9 実績・連携	26
3.5 Genzo AI	27
3.5.1 提供体制 – 事業会社知財部発の異色プレイヤー	27
3.5.2 製品構成 – 6 モジュール	27
3.5.3 AI 技術	27
3.5.4 データベース・言語・料金	28
3.5.5 実績・セキュリティ	28
3.6 AI Samurai	29
3.6.1 提供体制	29
3.6.2 製品ラインナップ（2026 年 8 月時点）	29
3.6.3 主要機能	29
3.6.4 AI エージェント機能 – IP Samurai MCP サーバー	30
3.6.5 AI 技術・自社特許	30
3.6.6 データベース・言語・料金	31
3.6.7 実績・セキュリティ	31
第 4 章 横断比較	32
4.1 データ基盤の比較	32
4.2 AI アーキテクチャの比較	32
4.3 AI エージェント成熟度の比較	33
4.4 機能カバレッジ・マトリクス	35
4.5 対応言語の比較	36
4.6 セキュリティ・データガバナンスの比較	36
4.7 料金の比較	37
第 5 章 精度指標の検証	39
5.1 定量指標を公表している 2 社	39

5.1.1	Patsnap「汎用 LLM 比 60%高い精度」	39
5.1.2	Patsnap PatentBench	39
5.1.3	PatentBench に関する 4 つの留保	39
5.1.4	Patentfield「Recall@100 42.22% → 70.22%」	40
5.1.5	USPTO 特許弁理士試験 (Patsnap)	40
5.2	残る 4 社の指標	40
5.3	精度に関する本レポートの結論	41
第 6 章	考察－6 サービスのポジショニング	42
6.1	2 つの軸で見た分布	42
6.2	Patsnap Eureka の本質的な差別化要因	42
6.3	Patsnap Eureka の留意点	42
6.4	日本 5 社それぞれの位置づけ	43
	サマリアー 日本の出願実務における最有力	43
	Tokkyo.Aiー プライベート検索と特許価値評価	43
	Patentfield AIRー 「大量に読む」に特化した割り切り	43
	Genzo AIー 事業会社知財部の暗黙知という資産	44
	AI Samuraiー MCP によるエコシステム戦略	44
6.5	業界固有のリスクー 生成 AI 関連特許をめぐる係争	44
第 7 章	結論と選定の指針	46
7.1	結論	46
7.2	用途別の選定指針	46
7.3	導入検討時に必ず確認すべき事項	47
	全社共通	47
	Patsnap Eureka	47
	サマリアー	47
	Tokkyo.Ai	47
	Patentfield AIR	47
	Genzo AI	48
	AI Samurai	48
付録 A	「公開情報では確認できず」の項目一覧	49
付録 B	主な出典	50
B.1	Patsnap Eureka	50
B.2	サマリアー (パテント・インテグレーション株式会社)	50
B.3	Tokkyo.Ai (リーガルテック株式会社)	50
B.4	Patentfield AIR (Patentfield 株式会社)	51
B.5	Genzo AI	51
B.6	AI Samurai	51

※ 目次のページ番号は、Word で開いた後に「フィールドの更新」を実行すると反映されます。

エグゼクティブサマリー

本レポートは、次世代型 AI エージェントを標榜する Patsnap Eureka と、日本国内で提供されている特許 AI 5 サービス（サマリア、Tokkyo.Ai、Patentfield AIR、Genzo AI、AI Samurai）を、機能・技術の観点から比較検討したものである。

主要な結論

1. 「AI エージェント」を標榜するのは 6 社中 4 社。ただし実装の中身はまったく異なる

2025 年から 2026 年にかけて、日本の特許 AI 市場は「検索・要約ツール」から「AI エージェント」へ急速にシフトした。Tokkyo.Ai は 2025 年 6 月に MyTokkyo.Ai を「日本初の AI エージェント搭載特許出願支援プラットフォーム」として、サマリアは 2026 年に「日本の特許情報サービス事業者では初の AI エージェント搭載」として、AI Samurai は 2026 年 7 月に「IP Samurai MCP サーバー」を「知財 AI エージェント」として投入している。

一方、Patentfield AIR と Genzo AI は「AI エージェント」を標榜していない。Patentfield AIR の実態は「最大 1 万件の検索母集団に対して生成 AI のプロンプトを一括適用するバッチ処理」であり、自律的に手順を計画・実行するものではない。これは技術的な劣位というより設計思想の違いであり、大量文献の査読という一点に絞り込んだ結果と評価すべきである。

2. データ基盤は Patsnap が突出。ただし Patentfield が唯一、具体的な収録件数と遡及範囲を公表している

Patsnap は特許 2.1 億件・非特許文献 2.16 億件・174 法域・法的データポイント 16 億件・総キュレーションデータ 35 億件超を公表し、日次更新を明記している。日本勢では Patentfield のみが「約 8,000 万件」という総件数と、日本 1971 年～・米国 1976 年～・EP1978 年～・DOCDB 1782 年～といった国別の遡及範囲まで開示している。サマリア、Tokkyo.Ai、Genzo AI、AI Samurai はいずれも収録件数を公表していない。

3. 「独自の特許特化モデル」を持つのは Patsnap と Patentfield の 2 社

日本勢の多くは汎用 LLM（OpenAI／Anthropic／Google）の API 利用にとどまるが、Patentfield は例外である。同社は 2026 年 4 月、経済産業省・NEDO 主催「GENIAC-PRIZE」において特別賞「技術新規賞」を受賞した。受賞対象は、特許公報・審査基準など 1,000 億トークン超の特許専門データで学習した独自基盤モデルであり、審査官の思考プロセス（請求項の構造化→引例発見→対比判断）を 3 つの専用 AI で再現し、外部 API を一切使わない完全ローカルアーキテクチャを採る。Patsnap の PatsnapGPT と並ぶ、本調査で確認できた 2 つの特許特化モデルである。

ただし注意が必要で、この受賞技術は商用オプションである Patentfield AIR とは別系統の研究開発成果であり、AIR 自体は GPT-4o / GPT-5-nano / Gemini / Claude といった汎用 LLM を使い分ける構成である。

4. 精度指標は依然として横並び比較が成立しない

Patsnap は自社構築ベンチマーク PatentBench で新規性調査の X 文献検出率 85%（Claude Opus 52.37%、ChatGPT 17.18%）を公表するが、テストセットの公開・再現手順は明記されておらず、同社サイト内でも 85%と 81%で数値が食い違っている。Patentfield は審査官引用実績を用いた対照学習により Recall@100 を 42.22%→70.22%に改善したと公表しており、本調査で確認できた中では最も指標として筋の良い数値だが、これも自社公表値でベンチマーク条件は非公開である。残る 4 社は定量的な精度指標を一切公表していない。

5. 情報開示の透明性はサマリアと Patentfield が高く、Tokkyo.Ai が最も低い

サマリアは料金・導入社数（196 社）・ISO 27001・保有特許番号までを公表し、Patentfield は料金体系・収録件数・遡及範囲・使用 LLM のモデル名・ISO 27001:2022 および ISO 27017 認証を公表している。使用モデル名を明示しているのは 6 社中 Patentfield のみである。

対照的に Tokkyo.Ai は、今回の再調査でも公式サイトของบริษัท概要・価格・製品トップ・AI エージェント詳細の各ページが HTTP 403 で取得できなかった。ただし今回、PR TIMES・検索システムの実画面・販売代理店から相当量の情報を新たに確認できており、第 3.3 節を大幅に更新している。

6. 業界内で特許権侵害訴訟が起きていた – サマリア対 Patentfield

本調査の対象 6 社のうち 2 社が、生成 AI 関連の特許権をめぐる係争していた。サマリアを提供するパテント・インテグレーション株式会社が、2024 年 10 月から 12 月にかけて Patentfield 株式会社に対し計 6 事件（3 次にわたる提訴）を東京地裁に提起し、2026 年 4 月 17 日に「民事調停法第 17 条に基づく調停に代わる決定」の確定をもって終了している。判決でも通常の和解でもなく、勝敗・和解条件・金銭授受はいずれも非公表である。

導入検討者にとっての含意は 2 点ある。第一に、Patentfield AIR は現在も提供継続中であり、訴訟終了直後に GENIAC-PRIZE 受賞を発表するなど事業への深刻な影響は見られない。第二に、原告側は終了リリースに「他の特許情報サービス提供企業におかれましては、同等機能を有するプログラムを提供した場合において、当社特許権の行使を免れるものではない」と付記しており、この分野の特許リスクが今後残ることを示唆している。

比較の全体像（要約表）

観点	Patsnap Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
提供体制	シンガポール発グローバル（ユニコーン）	弁理士創業の独立系（2002 年）	リーガルテック（旧 Tokkyo.Ai 株式会社）	京都発スタートアップ（2017 年）	島津製作所子会社（90%）	トヨタ系 TTDC 完全子会社
中核思想	業務別 AI エージェント群＋巨大データ基盤	LLM による文書読解＋人間承認型エージェント	プライベート検索環境＋自社検索 DB	大量文献の一括生成 AI 査読	知財業務の工程別自動化 SaaS	調査・評価・作成＋MCP 連携
データ規模	特許 2.1 億件／NPL2.16 億件／174 法域	非公表	非公表	約 8,000 万件（遡及範囲も公表）	非公表	非公表
対応法域	174 法域	JP/US/EP/WO＋CN/KR	JP/US/CN/KR/EP/PCT	JP/US/EP/CN/KR/TW/WO＋DOCDB	非公表	JP/US/CN（3 カ国）
AI エージェント	◎ドメイン別に体系化	○Ask/Agent 2 モード	○ディープエージェント方式	△標榜せず（バッチ処理）	△標榜せず	○MCP サーバー
LLM	独自特化型 PatsnapGPT	汎用（GPT 系／Claude 系選択可）	汎用（GPT-4o）＋RAG 明言	汎用マルチモデル（モデル名明示）＋別途独自基盤モデル	汎用（OpenAI＋Gemini）	汎用（ChatGPT）MCP は Claude
料金	無料～\$100/月～	無料～月 25,000 円	月 7,000～35,000 円	無料～月 30,000 円＋AIR 30,000 円～	年額 100 万～1,500 万円	非公表
認証	ISO27001:2022 SOC2 Type1	ISO/IEC 27001	確認できず	ISO27001:2022 ISO27017	記載なし	確認できず

表 0-1 6 サービスの要約比較（本文第 4 章で各項目を詳述）

本レポートの数値・仕様はすべて 2026 年 8 月 9 日時点で公開されている情報に基づく。各社が公表していない

項目は「非公開」「確認できず」と明記し、推測による補完は行っていない。また各社が自社で公表する性能値は、測定条件が開示されていない限り「自社公表値」として扱っている。

第1章 調査の背景・対象・方法

1.1 背景

特許調査業務は長らく「量」と「精度」の両立という構造的な課題を抱えてきた。先行技術調査には1件あたり数日、FTO（Freedom-to-Operate）調査を外部委託すれば1件あたり数万～数十万円、ターンアラウンドは1～3週間というのが従来の相場である。PatSnap Japan の提供資料も、FTO 調査の外部委託が1件あたり5,000～10,000米ドル、レビュー工数10～20時間以上、ターンアラウンド1～3週間であったと指摘している。

この構造に対して、2023年以降の大規模言語モデル（LLM）の実用化は二段階の変化をもたらした。第一段階は「検索・要約の支援」であり、自然言語での入力を受け付け、検索式を書けない担当者でも調査に着手できるようにした。第二段階が本レポートの主題である「AI エージェント」であり、単発の質問応答ではなく、技術的特徴の抽出→検索戦略の立案→反復検索→評価→レポート生成という一連のワークフローを自律的に完了させることを目指す。

2025年から2026年にかけて、日本国内でもこの第二段階への移行が一斉に進んだ。Tokkyo.Ai は2025年6月にMyTokkyo.Aiを、AI Samurai は2026年7月にIP Samurai MCP サーバーを、サマリアは2026年3月にAI エージェント編集機能を搭載した明細書作成支援を投入している。同時に、島津製作所は2026年4月に知財業務自動化 SaaS の新会社 Genzo AI を設立し、事業会社の知財部が自ら培ったノウハウを製品化するという新しい形態も現れた。本レポートは、この転換点における各社のポジションを機能・技術の観点から整理するものである。

なお、この市場は競争の激化を法的な形でも露呈させている。サマリアを提供するパテント・インテグレーション株式会社は2024年10月から12月にかけて、Patentfield 株式会社に対し生成 AI 関連の特許権侵害を理由に東京地裁へ計6事件を提起し、2026年4月17日に「調停に代わる決定」の確定をもって終了している（詳細は第6.5節）。同社は他社に対しても同種の訴訟を提起しており、この分野における特許リスクは導入検討時の考慮事項となりうる。

1.2 調査対象

#	サービス名	提供会社	本レポートでの略称
1	Patsnap Eureka	Patsnap（智慧芽）／日本法人: パトスナップ・ジャパン	Eureka
2	サマリア（Summaria）	パテント・インテグレーション株式会社	サマリア
3	Tokkyo.Ai プライベート特許検索® ／ MyTokkyo.Ai	リーガルテック株式会社（旧 Tokkyo.Ai 株式会社。2025年1月商号変更）	Tokkyo.Ai
4	Patentfield AIR（Patentfield の生成 AI 調査・分析オプション）	Patentfield 株式会社	Patentfield
5	Genzo AI	株式会社 Genzo AI（島津製作所 90％／IP Agent 10％）	Genzo AI
6	AI Samurai ONE / ZERO / IP Samurai MCP サーバー	株式会社 AI Samurai（トヨタテクニカルディベロップメント完全子会社）	AI Samurai

表 1-1 調査対象 6 サービス

1.3 評価の重点と方法

本調査は「機能・技術」を重点評価軸とする方針に基づき、以下の 7 つの観点で各サービスを分解した。

1. **データ基盤**：収録件数、対応法域、非特許文献の有無、更新頻度
2. **AI アーキテクチャ**：独自 LLM か汎用 LLM か、RAG 構成の有無、ハルシネーション抑制手法、自社特許の保有
3. **AI エージェント成熟度**：複数ステップの自律実行、レポート自動生成、人間の関与ポイント、外部 AI との連携
4. **機能カバレッジ**：先行技術調査、FTO 調査、無効資料調査、明細書作成、中間処理、翻訳、パテントマップ、SDI
5. **対応言語・出力形態**：UI 言語、検索言語、翻訳、Word/Excel 等の出力
6. **セキュリティ・データガバナンス**：第三者認証、入力データの AI 学習利用ポリシー、デプロイ形態
7. **導入・エコシステム**：料金、導入実績、API・外部連携、代理店網

1.3.1 情報源

- 各社公式サイト（製品ページ、料金ページ、ヘルプセンター、トラストセンター）
- PR TIMES 等に掲載された各社プレスリリース
- 報道（日本経済新聞、日経 xTECH、電波新聞、レスポンス、ロボスタ 等）
- gBizINFO・全国法人リスト等の公的法人情報
- 正規販売チャネル（DX Store、株式会社プロパティ等）の掲載情報
- ユーザーから提供された PatSnap Japan ブログ記事「AI エージェントが変える特許調査の現場」（2026 年 7 月 26 日）

1.3.2 本調査の限界

本レポートは公開情報のみに基づく机上調査であり、実機による検証は行っていない。特に以下の点に留意されたい。

- **精度の実測は行っていない**。各社が公表する精度・速度の数値は、いずれも自社の測定によるものであり、共通のテストセットによる横並び評価は存在しない。
- **Tokkyo.Ai は一次情報の検証が一部できていない**。公式サイトของบริษัท概要・価格ページ・製品トップ・AI エージェント詳細の各ページが、再調査時点でも HTTP 403 により取得できなかった。ただし PR TIMES の同社プレスリリース群、検索システムの実検索画面、正規販売チャネル（DX Store・株式会社プロパティ）からは相当量の情報を確認できており、本版ではこれらを反映している。
- **Patentfield は AIR と研究開発成果の切り分けに注意が必要**。商用オプション「Patentfield AIR」と、GENIAC-PRIZE 受賞対象である独自基盤モデルは別系統の成果であり、後者が製品にいつどう反映されるかは公表されていない。
- **Genzo AI は評価時期が早すぎる**。2026 年 4 月設立・5 月トライアル開始という段階であり、全 6 モジュールの提供が完了していない。外販実績も未公表である。
- **料金は比較可能な形になっていない**。Eureka はクレジット制、サマリアは指示数制、Tokkyo.Ai は ID 課金、Genzo AI は基本+トークン従量、AI Samurai は非公開と、課金単位そのものが揃っていない。

第2章 評価フレームワーク – 「AI エージェント」をどう測るか

2.1 AI ツールと AI エージェントの境界

PatSnap Japan の資料は、汎用 AI ツールと AI エージェントの差を次のように整理している。汎用 AI ツールが「質問に答える（単発）」のに対し、AI エージェントは「ワークフローを自律的に完了させる」。前者が個々のタスクの完了であるのに対し、後者は一連のワークフローの完了である。同資料は、エージェントの条件として「推論・計画・記憶・適応」の4要素を挙げている。

この定義は Patsnap 自身のマーケティング文脈で提示されたものだが、比較軸としては有用である。本レポートでは、これを実務的に判定可能な4段階の成熟度モデルに読み替えて用いる。

段階	呼称	判定基準	本調査での該当例
L0	検索支援	検索式生成・類似度ランキングまで。以降は人が実施	Tokkyo.Ai の初期機能（Illuminator / ULTRA）
L1	単機能生成・一括処理	文書を投入すると要約・評価・ドラフトを生成する。母集団への一括パッチ処理を含む	AI Samurai ONE の審査シミュレーション、Genzo AI の各モジュール、Patentfield AIR の一括査読
L2	多段ワークフロー	特徴抽出→検索→評価→レポートの複数ステップを連続実行する	サマリヤの調査支援、Tokkyo.Ai の MyTokkyo.Ai 4 ステップ
L3	業務単位の自律エージェント群	業務ごとに独立したエージェントが定義され、反復検索・自己評価・出典付きレポート生成まで完結。外部 AI からも呼び出せる	Patsnap Eureka の各 Agent、AI Samurai の MCP サーバー

表 2-1 本レポートで用いる AI エージェント成熟度モデル

注意：この成熟度は「優劣」を直接意味しない。L3 が常に最良ではなく、日本の出願実務のように弁理士の判断責任が重い領域では、L1～L2 の Human-in-the-Loop 設計が合理的な場合がある。実際、サマリヤは AI エージェントによる編集を実装しつつも「ユーザー承認を経て初めて文書に反映され、改訂履歴が残る」設計とし、Genzo AI は明確に「AI が論理的処理、人が判断」という分担を掲げている。

2.2 精度指標の扱い方

特許調査 AI の精度は、本来であれば以下の指標で測るべきである。

- **再現率（Recall）**：本来ヒットすべき先行文献のうち、実際に取得できた割合。調査漏れのリスクを直接反映する。
- **適合率（Precision）**：取得した文献のうち、実際に関連する文献の割合。スクリーニング工数に直結する。
- **X 文献検出率**：審査官が新規性阻却文献（X 文献）として引用した文献を、AI が上位に提示できた割合。実務的な「正解」が存在するため比較的客観性が高い。

本調査で、これらのいずれかを公表していたのは Patsnap（PatentBench）と Patentfield（Recall@100）の2社のみである。残る4社は、調査時間の短縮率（AI Samurai「最大 40%圧縮」、Genzo AI「スクリーニング手作業 90%削減」）や処理速度（Tokkyo.Ai「約 1 秒」、AI Samurai「レポート 10 秒」「明細書ドラフト約 3 分」、サマリヤ「従来 20 時間の全文確認を自動化」、Tokkyo.Ai「発明提案書作成時間を約 90%削減」）といった効率指標を訴求しているが、これらは精度の代替にはならない。

したがって本レポートでは、精度に関する記述は第5章に集約し、そこで各数値の測定条件・出典・限界

を明示的に検討する。第 4 章の比較表においては、精度を序列化する項目を設けない。

第3章 各サービスの詳細

3.1 Patsnap Eureka

3.1.1 提供体制

項目	内容
提供会社	Patsnap（智慧芽）
設立 / 本社	2007 年 / シンガポール（75 High Street）
創業者	Jeffrey Tiong 氏、Guan Dian 氏（いずれもシンガポール国立大学 NUS 出身）
主要拠点	シンガポール、ロンドン、東京、上海、トロント
日本拠点	東京都港区新橋 1-12-9 新橋プレイス 7F
資金調達	累計約 3 億 5,200 万米ドル。2021 年 3 月 Series E で 3 億米ドル（SoftBank Vision Fund 2、Tencent 共同主導）
企業評価額	10 億米ドル超（2021 年 Series E 時点でユニコーン化）。以降の最新評価額は非公表
業績	ARR 1 億米ドル超（2024 年 6 月発表、2023 年に前年比 20%成長）
顧客規模	18,000 社超（英語公式）／15,000 社以上（日本語公式）
従業員数	非公表（PitchBook は 537 名と推計）

表 3-1 Patsnap 企業概要

3.1.2 製品構成－4 ドメイン×エージェント群

Eureka は独立した単一製品ではなく、Patsnap のデータ基盤の上に載る「ケイパビリティ・レイヤー」として位置づけられている。現在は R&D / IP / Materials Science / Life Sciences の 4 ドメインをドロップダウンで切り替える構成に再編されており、各ドメイン内に業務単位のエージェントが並ぶ。

ファミリー	主な対象	主要エージェント
Eureka IP	知財担当者・弁理士	Novelty Search（新規性調査）、FTO Search、Design FTO Search（意匠 FTO）、Patent Drafting（明細書作成）、Invention Disclosure（発明届出書）、Office Action Response（拒絶理由応答）、Patent Translation、Monitor / Landscape
Eureka R&D	R&D エンジニア・研究者	Hiro（対話型アシスタント）、Technical Q&A / Ask（技術 Q&A）、Find Solutions（TRIZ ベースの解決策生成）、Quick Research（クイックリサーチ）、Solution Feasibility（実現可能性分析）、DFMEA Assistant、Pulse（トレンド監視）
Eureka LS	創薬・ライフサイエンス	Hiro LS Researcher、Lead Compound Analysis、SAR Data Extraction、Pharma Document Analyzer、Markush Claim Drafting、Antibody-Target Predictor、Pharma CI Explorer
Eureka Materials	材料・素材開発	Alloy Researcher（合金調査）、Material Scout（材料スカウト）、Find Solution、Formulation（処方設計）、Substance Inquiry、Structure Search、Material Synthesis Process

表 3-2 Eureka の 4 ファミリーと主要エージェント

このほか、Tech Scouting（Company Search / Competitive Landscape）、SEP（標準必須特許）向けの Essentiality Claim Chart・TDoc Novelty Search（Beta）、デスクトップ版 Eureka Desktop（Beta）が提供されている。提供形態はクラウドまたはオンプレミスの両対応である。

3.1.3 主要ワークフロー

IP 系エージェントは、公式に 5 段階の共通ワークフローとして説明されている。

8. 開示書／明細書／クレーム範囲／製品画像の取り込み
9. 判断に関わる特徴・用語・法域による検索フレーミング
10. 先行技術・クレーム抵触・視覚比較による証拠の抽出
11. 技術的特徴・クレーム・意匠特徴へのマッピング
12. レビュー可能な構造化結果のエクスポート

提供資料に記載された **Novelty Search Agent** の具体的な流れは、①アイデアの自然言語入力（検索式不要）、②AI による技術的特徴の自動抽出、③特許・NPL・インターネット情報を対象とした最大 6 回の反復検索と技術的類似性によるランク付け、④技術的特徴と上位参考文献の構造化比較による重複部分・潜在リスクの特定、⑤類似度スコアを含む共有可能なノベルティレポートの生成、である。最大 6 回の反復検索という点が、単発の類似検索と自律エージェントを分ける実装上の要点である。

FTO Search Agent については、「1 回の単発チェックから R&D の各チェックポイントでの継続的リスク評価へ」という設計思想が示されており、コンセプト・設計・開発・出荷前の各ステージで FTO 評価を行うレイヤーとして位置づけられている。

3.1.4 AI 技術 – PatsnapGPT

Eureka の中核は、Patsnap が自社で構築したドメイン特化型 LLM「PatsnapGPT」である。同社は「独自のイノベーションデータで訓練された世界初の LLM」と説明している。

- 学習データ規模：専門家がキュレーションしたイノベーションデータ 35 億件超
- ハルシネーション抑制：全回答に出典リンクを付与し、根拠となる一次情報への追跡経路を確保。構造化・キュレーション済みの専有データにグラウンディングする RAG 的アーキテクチャ
- 提供資料の記載では「4 段階のデータパイプラインでハルシネーションを大幅に抑制」
- ツール群：Eureka は 140 以上のツール（RAG、FTO 分析、ドラフティング、検索、分析、監視）を提供
- 顧客データを事前学習・再学習に一切使用しない方針を明記

PatsnapGPT のベースモデル、パラメータ数、ファインチューニング手法といったアーキテクチャの詳細は公開されていない。またハルシネーション率の実測値も公表されていない。「4 段階のデータパイプライン」の具体的な処理内容も明らかにされていない。

3.1.5 データ基盤

項目	数値	備考
特許	2 億 1,000 万件 (210.0M)	提供資料では 208M 件と記載
非特許文献（論文等）	2 億 1,630 万件 (216.3M)	MAG、Crossref 等が主要ソース
対応法域	174 法域	同社サイト内に 172 法域という表記も混在
法的データポイント	16 億件 (1.6B)	
総キュレーションデータ	35 億件超	20 の専門ドメイン、構造化データ 20 億件超

項目	数値	備考
その他	ニュース記事 20 億件、生物配列 8 億 7,900 万件、化学構造 2 億 5,400 万件、科学技術書籍 100 万件	
更新頻度	日次 (Daily)	提供資料では「毎週更新」と記載され表記に揺れ

表 3-3 Patsnap のデータ基盤 (Analytics 製品ページ2026 年 8 月 6 日更新時点)

3.1.6 対応言語 – 日本市場での最大の論点

Patsnap 公式サイトおよび Analytics は日本語 UI に対応しており、patsnap.jp は完全に日本語化されている。特許ビューには中国語・英語・日本語への翻訳ボタンが用意されている。

一方で、Eureka の各エージェントの言語対応には注意が必要である。日本の販売代理店であるパトコアの資料では、Invention Disclosure (発明届出書) と Patent Translation (特許翻訳) は「英語と中国語に対応」とされ、Patent Drafting は USPTO / EPO / CNIPA 形式に対応と記載されている。JPO 形式の日本語明細書作成に対応しているかは公式には明示されておらず、本調査では確認できなかった。

これは日本企業にとって実務上きわめて重要な論点である。日本国内出願の明細書ドラフト生成を主目的とする場合、Eureka がその要件を満たすかは導入前に必ず個別確認すべきである。逆に、グローバル出願・海外先行技術調査・技術動向調査が主目的であれば、この制約の影響は小さい。

3.1.7 料金

モジュール	Basic (無料)	Pro	Enterprise
Eureka (R&D)	月 5,000 クレジット、基本 AI Q&A、TRIZ	月 \$100 (年払 \$1,080) / 月 20,000 クレジット、Deep TRIZ、プロレポート	要問い合わせ
Materials (MSE)	無料枠あり	月 \$200 (年払 \$1,920)	要問い合わせ
Life Sciences	無料枠あり (文書解析 2 件、リード化合物解析 5 件等)	月 \$400 (年払 \$4,320) / 日次上限 7.5 倍	要問い合わせ
Open Platform (API)	—	従量課金・カスタム	—

表 3-4 Eureka の料金 (patsnap.com/pricing 掲載時点)

Enterprise ではチーム管理・プール式クレジット、99.9% SLA、SSO、ロールベース権限、専任サポートが提供される。ただしドメイン別ランディングページでは Pro が \$200/月・\$400/月と表示され、クレジット階層も 10k / 20k / 40k / 60k のスライダー式になっているなど、表示価格に揺れがある。日本語サイトおよび日本の代理店ページには価格の記載がなく、実質的に個別見積である。

3.1.8 セキュリティと API

- ISO/IEC 27001:2022 取得 (年次外部監査)、SOC 2 Type 1 (AICPA) 取得。SOC 2 Type 2 は未確認
- GDPR / CCPA 準拠。転送時・保管時ともに暗号化 (TLS 1.3、AES-256)
- 顧客データをモデルの事前学習・再学習に一切使用しない。Open Platform では「Zero-retention policy」を明記
- Open Platform : 160 以上のエンドポイント (別ページでは 300 以上のデータ API / 60 以上のエージェント API と表記)。REST API / MCP サーバー / UI ウィジェット / Agent Skills の 4 形態

● 対応 AI プラットフォーム：Cursor、Claude Desktop、LangChain、AutoGen、CrewAI

データレジデンシー（保管地域）とサブプロセッサ一覧は公開されていない。日本国内でのデータ保管を要件とする企業は、この点を個別に確認する必要がある。

3.1.9 日本市場での実績

公式サイトに掲載されている日本の導入事例は、キヤノン株式会社（グローバル特許情報から学術文献までを網羅するデータ量と信頼性を評価。アイデア初期段階から出願・権利化・活用、他社特許クリアランス業務まで活用）と、KH ネオケム（PatSnap 製品群の連携活用による調査精度と業務効率の向上）である。日本国内の販売代理店として、パトコア株式会社、中央光学出版株式会社、株式会社アイデア（TRIZ 支援・伴走型導入支援）が確認できる。日本国内の正確な導入社数は公式には公表されていない。

3.1.10 直近の動向（2025～2026 年）

時期	内容
2025 年 6 月 9 日	Hiro-LS を Eureka LS へ全面アップグレード（パイオファーマ向け 5 エージェント投入）
2025 年 9 月 19 日	PatentBench を発表（「特許 AI 向け初の包括ベンチマーク」と自称）
2026 年 3 月 18 日	大型アップデート。ホーム画面を単一入力ボックスに刷新、Find Solution-TRIZ がテキスト＋図＋動画で解決経路を出力、Ask が図解出力に対応、トレンド監視ツール Pulse を新規追加
2026 年 4 月 24 日	PatentBench の新規性調査結果を更新
2026 年 5 月 7 日	Synapse を FactSet Workstation 経由で提供開始
2026 年 6 月 18 日	Hiro に会話型検索を追加（「Hiro for Analytics」）
2026 年 6 月 25 日 / 8 月 6 日	Intellegens との提携（処方設計×特許性・FTO） / Evolvus とのデータ提携

表 3-5 PatSnap Eureka の直近アップデート

3.2 サマリア (Summaria)

3.2.1 提供体制

項目	内容
提供会社	パテント・インテグレーション株式会社 (Patent Integration Co., Ltd.)
設立 / 資本金	2002 年 6 月 / 900 万円
代表	大瀬 佳之 (Founder CEO、弁理士かつ AI エンジニア)
所在地 / 規模	東京都千代田区九段南 (名古屋オフィスあり) / 従業員 5 名 (外部委託含む)
上場	非上場
提供開始	2023 年 4 月 5 日
関連製品	Patent Integration (SaaS 型特許検索・分析)、Patent Integration Report (分析レポート自動作成)

表 3-6 パテント・インテグレーション企業概要

3.2.2 機能構成

サマリアは「特許読解支援 AI アシスタント」として出発し、現在は知財業務のほぼ全工程をカバーする構成に拡張されている。

カテゴリ	機能
読解・要約	用語定義説明、特許サマリ作成 (用途・課題・解決手段・効果の観点で明細書全文を要約)、ハイライト表示、キーワード色分け
対比・評価	クリアランス (侵害予防) / 無効資料調査の評価、複数文書比較、届出発明評価、権利維持判断
分類	AI 分類付与、分類展開、用語抽出
調査支援	検索式の自動生成 (最大 50 件) → 予備検索・精度評価の自動実行 → 結果の統合 → スクリーニング
中間処理	拒絶理由への応答方針作成、意見書案・補正書案のドラフト生成
明細書作成支援	明細書ドラフト生成、AI エージェント編集、50 項目以上のルールベース明細書チェック (2026 年 3 月 19 日リリース)
発明提案書作成支援	発明の構造化 → ブラッシュアップ → 論理検証 → 提案書生成
図面・その他	図面マークアップ、クレームチャート作成
監視・一括処理	定期監視 (SDI、日次/週次/月次の自動取込・通知)、出願人・分類・キーワード条件による一括指示
レポート	グラフ・マトリクスのワンクリック生成 (パテントマップ/ポートフォリオ分析)

表 3-7 サマリアの機能一覧

調査支援機能の具体的スペックは公表されている。特許請求の範囲や発明提案書を入力すると、重み付けに基づくキーワード検索式を最大 50 件自動生成し、予備検索と精度評価を自動実行して結果を単一の特許集合に統合する。スクリーニングでは約 2,000 件の特許文書を読み込み、「従来 20 時間を要した全文確認」を AI が自動実行するとされる。この機能は特許調査専門家の角淵秀晃氏の監修を受けている。

3.2.3 AI 技術

- **LLM**：汎用 LLM を利用。Microsoft Azure OpenAI 経由で OpenAI GPT 系を利用（公式サイトには GPT-5.6 モデル導入の記載）。加えて Anthropic Claude 系も用途別に選択可能で、拒絶理由対応ワークフローには Claude 3 Opus を採用したとの第三者分析がある。
- **教師データ不要**：生成 AI の採用により「従来の機械学習における教師データ確保という課題を解決」したと説明されている。
- **自然言語入力**：発明提案書や請求項などの文書を投入すれば検索式を自動生成するため、ユーザーによる検索式作成は不要。
- **ハルシネーション対策**：特許 7788122 で「要約・請求項・詳細な説明など LLM に渡すセクションをユーザーが選択できる」構成を権利化している。
- **自社特許**：出願 23 件・保有 12 件。特許 7788120（LLM による分類付与・特許評価）、7788121（分類／製品対比／発明対比のタスク組合せ）、7788122（セクション選択）、7744712（明細書作成支援関連）。

サマリアは自社の全文検索データベースを保有していないと第三者資料は指摘しており、アーキテクチャはキーワード検索式の生成+LLM による全文読解という構成と見られる。ベクトル検索・セマンティック検索や RAG 構成の明示的な言及は確認できなかった。IPC 等を用いた複合条件検索には対応していないとの指摘もある。

3.2.4 AI エージェント機能

サマリアは明細書作成支援・発明提案書作成支援に「Ask（質問）」と「Agent（編集）」の 2 モードを実装している。Agent 実行後もユーザー承認を経て初めて文書に反映され、改訂履歴が残る設計である。従来技術調査では「検索式の自動生成から特許調査・ウェブ調査・文献査読まで」を実施し、新規性・進歩性コメント付きの調査報告書を自動生成する。同社はこれを「日本の特許情報サービス事業者では初の AI エージェント搭載」と表現している。

また論理検証には畑村洋太郎氏の「試動フレームワーク」を AI 実装したものが用いられ、TRIZ・KJ 法・SCAMPER 等 12 種のフレームワークが搭載されている。

3.2.5 データベース・言語・出力

- **収録**：日本国特許庁公報、中国・韓国公報（2026 年に収録強化）、国際特許出願。従来技術調査機能は JP・US・EP・WO の主要国を網羅。収録件数は非公表。
- **言語**：日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語の 6 言語（有料プラン）。無料プランは日本語のみ。
- **出力**：Word（校閲記録付き）／Excel／PDF／グラフ・レポート形式。明細書ドラフト（従属クレーム展開・実施例を含む）、意見書案・補正書案、発明提案書、クレームチャート。

3.2.6 料金

プラン	年払（月額換算）	月払	指示数	対象
フリー	¥0	¥0	48 時間あたり 4 指示	個人・日本語のみ
ミニマム	¥8,000	¥10,000	400 指示 / 30 日	個人・個人事業主
ビジネス	¥15,000	¥18,000	1,000 指示 / 30 日	個人・個人事業主
コーポレート	¥25,000	¥30,000	2,000 指示 / 30 日	法人・全機能・多言語

表 3-8 サマリアの料金体系（1 アカウント単位）

コーポレートのメンバー管理オプションは規模により月額 ¥18,000～¥98,000。追加指示は 2,000 指示

¥30,000 / 1,000 指示 ¥18,000 / 400 指示 ¥10,000（各 30 日）。無料トライアルあり。5 サービス中、料金体系を最も明確に公表している。

3.2.7 実績・セキュリティ

- 導入実績：196 社（2026 年 7 月時点、公式サイト）。三菱電機、旭化成、東京ガス、カヤバ、エーザイ、アボットジャパン、リコー、グリー、NEC、東芝、弁理士法人 IPX、広島大学、滋賀大学 ほか
- 受賞：第 37 回「中小企業優秀新技術・新製品賞」ソフトウェア部門 優良賞（2025 年）、第 4 回 IP BASE AWARD エコシステム部門 奨励賞（2023 年）
- ISMS 認証（ISO/IEC 27001）取得（2025 年 1 月 6 日公表）。SSL 暗号化通信、AWS 基盤
- 弁理士法第 75 条（非弁行為）対応を強化。利用規約への違反時契約解除事由の追加、利用前および Word 出力時の注意喚起、ダウンロード時の確認ステップを実装
- 特許庁審査官の統計情報サービス「審査官ラボ」とサービス連携

入力データの AI 学習利用について、サマリア自身の明示的なポリシー文言は確認できなかった（Azure OpenAI 利用という記載のみ）。Azure OpenAI は Microsoft 側でモデル学習に使用しない仕様だが、サービス提供者としての公表文言としては未確認である。公開 API の有無も確認できなかった。

3.3 Tokkyo.Ai

3.3.1 提供体制－運営会社の商号変更注意到

重要な訂正：Tokkyo.Ai 株式会社は 2025 年 1 月 20 日付で「リーガルテック株式会社」へ商号変更しており、現在「Tokkyo.Ai」は法人名ではなく製品ブランド名である。同社のプレスリリースでは今も「リーガルテックグループ Tokkyo.Ai 社」という表記が併用されているため、混同しやすい。

項目	内容
提供会社	リーガルテック株式会社（旧 Tokkyo.Ai 株式会社。2025 年 1 月 20 日 商号変更）／法人番号 5010401158646
設立 / 資本金	2021 年 3 月 / 約 3 億 8,000 万円（資本準備金含む。2024 年時点は 2 億 4,000 万円）
資金調達	累計 約 3 億 8,000 万円（直近ラウンドで約 1.4 億円を調達）
代表者	代表取締役社長 平井 智之（2026 年時点。2025 年時点のリリースでは佐々木 隆仁）
本社	東京都港区虎ノ門 5-13-1 虎ノ門 40MT ビル 4F
グループ	親会社はリーガルテックグループ株式会社（旧 AOS 系）。従業員数は非公開
上場	未上場（VC からの調達を継続）
受賞	2022 年 経済産業省主催 日本スタートアップ大賞 経済産業大臣賞

表 3-9 Tokkyo.Ai（リーガルテック株式会社）企業概要

本調査では、公式サイトของบริษัท概要（/company/）、価格ページ（/pvt/price/）、製品トップ（/pvt/）、AI エージェント詳細（/patent/ai-agent/）の各ページが、初回・再調査ともに HTTP 403（WAF による遮断と推定）で取得できなかった。また ip-ls.mytokkyo.ai は DNS 解決自体ができず、現在は稼働していない可能性が高い。本節は、PR TIMES に掲載された同社プレスリリース群、検索システムの実検索画面、正規販売チャネル（DX Store・株式会社プロパティ）、および第三者報道に依拠している。

3.3.2 製品ラインナップ

製品	内容
Tokkyo.Ai プライベート特許検索®	中核製品。企業ごとの専用ログイン URL で、検索クエリ・検索履歴が社外に出ない企業内プライベート検索環境。オンプレミス（自社サーバ設置）オプションも提供
MyTokkyo.Ai	AI エージェント搭載の特許出願支援プラットフォーム（2025 年 6 月提供開始）。2026 年にディープリサーチ機能を搭載
ChatTokkyo / ChatDraft	対話型 AI エージェント機能。ChatDraft は特許文書ドラフト作成支援を強化した機能（2026 年）
特許価値評価 AI	市場影響度スコア、競合ブロック力、代替可能性分析、将来マネタイズ確率推定、維持コストと期待価値の比較、事業戦略との整合性評価を数値化
IPGenius / IDX	社内データと特許を統合分析する AI 基盤。2026 年 4 月より大手製造業と PoC を開始
Illuminator / ULTRA / Pulse	AI 特許調査・検索精度・特許文案作成の各アップデート（2023～2024 年）
検索クエリリポジトリ®	企業内検索履歴の保存・分析

表 3-10 Tokkyo.Ai の製品ラインナップ

3.3.3 機能

検索・調査系：AI テキスト検索は、請求項・要約・技術説明文などのテキストを入力すると約 1 秒で類似特許を返し、類似度 (%) 順にランキング表示する。AI 推薦（選択した結果をもとに関連特許を自動提案）、請求項比較機能（公開公報と登録公報の変更点を追跡し審査結果を分析）を備える。検索方式は検索式検索／項目別検索／コマンド構文検索の 3 モードに加え、検索クエリ生成機能を持つ。特許・商標・意匠に加え、関連訴訟／審判情報と企業情報を横断同時検索できる。

分析・可視化系：パテントマップ（出願動向・引用傾向をデフォルト表示）、引用・被引用特許マップ（侵害リスク分析に活用）、バブルマップによる関連技術可視化、知財権者情報の分析、4 法横断の出願人分析。技術分野分析機能は過去 10 年以内のデータを対象とすると明記されている。

生成 AI・作成支援系：明細書自動生成（「発明の名称」「技術分野」「背景技術」「発明の課題」等を入力するだけで生成）、社内文書の要約・拡充、社内文書と既存特許の比較分析、発明提案書ドラフト生成、特許要約、特許価値評価。

FTO／侵害予防調査、無効資料調査、ウォッチング／SDI を専用機能として明示した記載は、再調査でも確認できなかった。FTO は用語解説記事のみで、引用・被引用マップによる「侵害リスク分析」への言及にとどまる。

3.3.4 AI エージェント機能 – MyTokkyo.Ai とディープエージェント方式

MyTokkyo.Ai は「日本初となる AI エージェントを搭載した特許出願支援プラットフォーム」として 2025 年 6 月に提供開始された。アイデア整理 → 先行技術調査 → 差別化分析 → 発明提案書・出願ドラフト生成という 4 ステップを、1 つのチャット内で連続実行する。

2026 年の機能強化では、複数の AI が役割分担して自律動作する「ディープエージェント方式」が採用されたと公表されている。思考プロセスを可視化しながら、調査から分析、提案書作成までを自律実行し、キーワード一致ではなく意味（文脈）ベースで先行技術を探索したうえで、「技術的構成」「機能・効果」「目的」別に特許群を構造化して出力する。入力された技術メモは「課題」「解決手段」「技術的効果」の 3 観点で自動構造化される。

ChatTokkyo の実行ステップは、①特許番号検索 → ②「スマートリソース」への追加 → ③AI による技術的特徴の要約 → ④類似特許を表形式で出力（特許番号／出願人／要約／類似点／相違点・留意点／類似判断の理由）という流れで、コマンド機能も備える。

3.3.5 AI 技術

- **LLM：**汎用 LLM を利用。明細書自動生成機能は当初「OpenAI の最新技術 GPT-3.5 を活用」と公式に記載され、後継の「生成 AI Plus」では ChatGPT-4o の実装が明記されている。2026 年時点の現行モデル名は非公開。
- **RAG：**採用を明言している。「特許データベースに基づく RAG でハルシネーションを低減」「特許ドメイン特化のチューニング」と説明されている。6 社中、RAG 構成を明示しているのは Patsnap と Tokkyo.Ai の 2 社である。
- **ユーザーによる重み付け：**ULTRA アップデートにより、AI が入力文から抽出したキーワードのうち重視する語をユーザーが選択して検索方向を制御できる。
- **未確認：**ベクトル検索の実装詳細（埋め込みモデル、ベクトル DB）、独自学習モデルの有無、定量的な精度指標はいずれも確認できなかった。

3.3.6 データベース・言語・出力

検索システムの実画面と販売代理店資料から、対応範囲を以下のとおり確定できた。

国・地域	対応する権利種別
日本	特許・実用新案・意匠・商標・審判（審決）
米国	特許・実用新案
中国	特許・実用新案
韓国	特許・実用新案・意匠
EP（欧州特許庁）	特許・実用新案・意匠
PCT	特許・実用新案・意匠

表 3-11 Tokkyo.Ai の対応国・権利種別

分類体系は、特許が IPC / FI / F ターム / テーマコード / ファセット、意匠が日本意匠分類 / D ターム / ロカルノ国際分類、商標がニース分類 / ウィーン図形分類に対応する。一方、収録件数、遡及範囲（収録開始年）、データソースの一次名称、更新頻度の定量表現はいずれも非公開のままである。非特許文献・論文の収録も確認できなかった。

言語は日本語 UI・日本語出力に最適化されており、第三者分析では WIPO Translate 連携による自動翻訳への対応が指摘されている。出力形態については、比較表・発明提案書・明細書ドラフトを画面内で生成する旨の記載のみで、Excel / Word / CSV へのエクスポート形式の明記は確認できなかった。

3.3.7 料金

商材 / プラン	価格（税抜）	出典・備考
無料プラン	0 円	AI テキスト検索 1 日 10 回まで。検索式検索・詳細検索・検索式生成・バブルマップ等は無料
検索システム（1ID）	月額 7,000 円	販売代理店（株式会社プロパティ）。複数 ID は要相談
生成 AI 機能（ULTRA / 生成 AI Plus）	月額 15,000 円	1 ユーザーあたり。2 週間の無料トライアルあり
プライベート特許検索	初期 120,000 円＋月額 35,000 円／追加 1ID あたり 月額 5,000 円	DX Store 掲載。最低利用期間 6 ヶ月
MyTokkyo.Ai	月額 20,000 円 → 2026 年 4 月より 35,000 円	第三者メディア（VOIX）報道。公式価格ページは 403 のため未検証
エンタープライズ / オンプレミス版	非公開	要問い合わせ

表 3-12 Tokkyo.Ai の価格（判明分）

「初期 120,000 円＋月額 35,000 円＋1ID 5,000 円」（プライベート検索プラン）と「1ID 月額 7,000 円」（検索システム単体）は、異なる商材を指していると考えられ、矛盾ではない可能性が高い。ただし公式価格ページが取得できないため確定はできない。

3.3.8 実績・セキュリティ

最大の訴求点は「プライベート特許検索®」という設計思想である。企業ごとの専用ログイン URL を用い、検索クエリ・検索履歴が社外に出ない構成とすることで、ネットワーク上の傍受による調査意図の競合への漏洩を防ぐと説明されている。加えて「検索クエリリポジトリ®」による社内検索履歴の一元管理と、大規模ユーザー向けのオンプレミス版が用意されている。ただし ISO 27001、SOC 2、P マーク等の第

三者認証の取得は再調査でも確認できず、入力データの AI 学習利用に関する明示的なポリシー、データ保管場所の記載も確認できなかった。

導入企業として実名で確認できたのは、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社（研究開発・知財業務支援）、ナミックス株式会社（発明整理・先行技術調査・対比検討の 3 領域。先行技術確認が「数週間～数か月」から「1 時間程度」に短縮した例）、東京工業大学である。このほか商業施設向け接客ロボット企業、インフラ点検ロボット企業、自律移動ロボット企業、大手製造業（PoC）の匿名事例がある。導入社数の公表値はない。

効果指標としては、出願依頼文の作成が 1 件あたり 10～20 時間から 1～2 時間以内へ（約 90%削減）、特許出願準備が 10 時間から 1 時間未満へ短縮したとの数値が公表されている。API・外部連携および MCP 対応の記述は、再調査でも確認できなかった。

3.4 Patentfield AIR

名称について：正式表記は大文字の「AIR」であり、正式名称は「生成 AI 調査・分析オプション Patentfield AIR」である。独立サービスではなく、AI 特許総合検索・分析プラットフォーム「Patentfield」の有料オプション機能であり、利用には Patentfield の Mini プランまたは Corp プランの契約が前提となる。本節では、プラットフォーム本体の機能と AIR オプションの機能を区別して記述する。

3.4.1 提供体制

項目	内容
提供会社	Patentfield 株式会社（Patentfield Ltd.）／法人番号 7130001059685
設立	2017 年 4 月 20 日。創業初期の所在地は京都大学国際科学イノベーション棟
本社 / 拠点	京都市中京区六角通室町西入玉蔵町 121 美濃利ビル 5 階／東京・名古屋にオフィス
代表者	代表取締役 村上 直也（CEO 兼 CTO）、共同 CEO 石津 孝祐
資本金 / 従業員	公開情報では確認できず / 公式非公表（Wantedly 掲載では約 10 名）
上場 / 資金調達	非上場。2018 年 4 月に日本ビジネスシステムズ株式会社を引受先とする第三者割当増資（金額非公表）。2018 年 11 月時点の調達後評価額 2 億 5,600 万円。2019 年以降のラウンドは確認できず
認証	ISO/IEC 27001:2022（JIS Q 27001:2023）、ISO/IEC 27017:2015 取得済み
公的資格	全省庁統一資格「役務の提供等」C 等級
受賞	2026 年 4 月 24 日、経済産業省・NEDO 主催「GENIAC-PRIZE」審査領域 02 にて特別賞「技術新規賞」受賞

表 3-13 Patentfield 企業概要

3.4.2 製品構成－プラットフォーム本体とオプション

プラットフォーム「Patentfield」は、①プロフェッショナル検索（論理式・近傍・あいまい検索、100 以上の検索フィールド）、②データ可視化（12 種以上のチャート、パテントマップ、引用連鎖分析、独自の PF スコア）、③AI セマンティック検索（自然文入力による類似検索）、④AI 分類予測（教師あり学習による 2 値／多クラス／マルチラベル分類、教師データ最大 1 万件）の 4 本柱で構成される。

その上に、以下の有料オプションが用意されている。

オプション	内容	月額（税抜）
Patentfield AIR	生成 AI 調査・分析オプション。本節の主題	30,000 円～
AI サマリーグローバル	海外特許 8,000 万件に日本語の AI 要約・分類ラベルを付与	Corp プラン月額の 30%
日本語横断検索	主要国の全文を翻訳して横断検索	15,000 円
類似画像検索	図面の類似画像検索	15,000 円
PF レポート	レポート出力	15,000 円
専用クラウド環境	専用環境の提供	50,000 円～
API 連携	各機能の API 提供	個別見積（非公表）

表 3-14 Patentfield のオプション構成

3.4.3 Patentfield AIR の機能

AIR の設計思想は明快で、「検索で絞り込んだ母集団に対し、生成 AI のプロンプトを一括適用する」ことに特化している。処理対象は最大 1 万件の公報である。

- 最大 1 万件の検索母集団に対する一括生成 AI 処理（バッチ査読）
- 特許文献の独自要約作成（平易な文章への書き下し）
- 外国文献の翻訳
- 実施例の組成・数値抽出
- 社内分類ラベルの付与（技術分類・ラベリング）
- 先行文献との対比評価／関連性の数値評価（新規アイデアと関連性の高い先行特許の抽出）
- 技術構成比較、ポートフォリオ分析
- 画像認識による公報内の図面・図表情報の抽出
- 査読アシスタント（通常の検索画面上で AI 査読結果を確認。公報原文と AI 生成結果を同時表示）
- 可視化機能との連携（AI 出力をマップ表示）
- 特許調査・分析用途に特化したプロンプトテンプレート／プリセット指示文（カスタマイズ可）

一方、特許明細書作成支援、発明提案書作成、拒絶理由対応を AIR の機能として明示した記載は確認できなかった。FTO／侵害予防調査、無効資料調査についても専用モードとしての記載はなく、汎用の対比評価機能で代替する形と見られる。ウォッチング／SDI とスコアリング（PF スコア）はプラットフォーム本体の機能である。

3.4.4 AI 技術－2 つの系統を区別する

(1) 商用オプション Patentfield AIR：汎用 LLM を利用するが、6 社中で唯一、使用モデル名を明示している点が特徴である。

- リリース時（2024 年 7 月）：ChatGPT-4o、Gemini 1.5 Flash、Claude 3.5 Sonnet / Claude 3 Opus（Claude はユーザー API キー使用時）
- 2025 年時点のサポート記事：GPT-4o、GPT-4o-mini
- 2025 年 9 月時点の製品ページ：GPT-5-nano
- BYOK（API キー持ち込み）対応：ChatGPT / Gemini / Claude / Azure OpenAI のユーザー所有 API キーで利用するプランを提供
- データポリシー：API 環境の利用により「ユーザーデータが学習目的に利用されることはありません」と明記。データ保持は最大 30 日で削除

(2) GENIAC-PRIZE 受賞技術（特許先行技術調査支援 AI システム）：AIR とは別系統の研究開発成果であり、技術的にはこちらが先進的である。

- 特許公報・審査基準など 1,000 億トークン超の特許専門データで学習した独自基盤モデル
- 審査官の思考プロセス（請求項の構造化→引例発見→対比判断）を 3 つの専用 AI の組合せで再現
- 教師ありファインチューニングによる「プロンプトレス推論」（指示文を不要化）
- 完全ローカル AI アーキテクチャ（外部 API を一切使用しない）
- 経済産業省・NEDO 主催 GENIAC-PRIZE 審査領域 02「官公庁の審査業務効率化のための生成 AI 開発」にて特別賞「技術新規賞」を受賞（2026 年 4 月 24 日）

この受賞技術がいつ、どのような形で商用製品に反映されるかは公表されていない。したがって現時点の Patentfield AIR を「独自特許特化モデル搭載」と評価することはできない。ただし研究開発の方向性としては、

Patsnap の PatsnapGPT に対抗しうる唯一の日本勢と言える。

その他：AI セマンティック検索は自然文入力に対応し検索式を必要としない（「開発アイデアの自然な文章を入力するだけ」）が、ベクトル検索・埋め込み・RAG といった技術用語による説明は公式サイトになく、内部実装は確認できなかった。AI サマリー生成に用いるモデル名も非公開である。AI 分類予測は教師あり機械学習による分類器（教師データ最大 1 万件）である。

3.4.5 公表されている精度・効率指標

指標	値	性質・備考
Recall@100	42.22% → 70.22%	審査官引用実績を用いた対照学習による改善。GENIAC-PRIZE 受賞リリースでの自社公表値。ベンチマーク条件の詳細は非公開
適合率	約 3.8 倍向上	クエリ例「樹脂をコーティングした金属板の製造方法」。自社公表値。比較対象・測定方法は非公開
査読業務時間	約 65%削減	AIR に関する自社公表値
調査工数	最大 80%削減	AI 検索ウェビナー資料での自社公表値
工数削減	最大 40%削減	顧客事例（コニカミノルタコネク）としての公表値

表 3-15 Patentfield が公表する指標

Recall@100 は「上位 100 件の中に正解文献をどれだけ含められたか」を示す再現率指標であり、審査官の引用実績を正解データとして用いている点で、本調査で確認できた指標の中では最も実務的な意味が明確である。ただしテストセットや評価条件は公開されていない。

3.4.6 AI エージェント機能の位置づけ

Patentfield は公式に「AI エージェント」を標榜していない。製品ページに「AI エージェント」「自律実行」「複数ステップ自動実行」「レポート自動生成」といった記載はいずれも確認できなかった。AIR の実態は、指定した母集団に対しプロンプトを一括バッチ適用する生成 AI 処理であり、自律的にステップを計画・実行するものではない。

一方で、Patentfield API を用いてユーザー側が MCP 経由の知財 AI エージェントを自作した事例が、第三者ブログで複数公開されている（構成要件比較表の自動生成など）。Patentfield 公式の MCP サーバー提供は確認できなかったが、API が開放されているため外部からのエージェント化は可能な構造になっている。

3.4.7 データ基盤 – 6 社中で最も透明性が高い

国・地域	収録範囲（遡及）
日本	特許・実用新案 1971 年～、意匠 2000 年～
米国	特許・植物・意匠公報 1976 年～
欧州（EPO）	公開特許 1978 年～
中国	1985 年～（特許／実用新案／意匠は 2025 年 5 月に標準搭載）
韓国	2016 年～（同上）
台湾	1991 年～

国・地域	収録範囲（遡及）
WO (PCT / WIPO)	1978 年～
DOCDB	100 以上の国・地域、1782 年～

表 3-16 Patentfield の収録範囲

総収録件数は約 8,000 万件。AIR の処理対象国は日本・米国・欧州・中国・韓国・台湾・WO である。非特許文献・論文への対応は確認できなかった。国別の遡及開始年まで開示しているのは 6 社中 Patentfield のみであり、調査の網羅性を事前に判断できるという点で実務的価値が高い。

3.4.8 対応言語・出力・料金

「日本語横断検索」オプションは 2025 年 9 月より主要国すべてで全文の翻訳検索に対応した。また「AI サマリーグローバル」は海外特許 8,000 万件に日本語翻訳された独自要約と分類ラベルを付与し、日本語での横断検索・分析を可能にする。AIR には外国文献の機械翻訳機能がある。英語 UI サイトも運用されている。

出力は、AI 出力結果・査読結果を公報情報とあわせた Excel ダウンロード（本体では 1,000 件以上のエクスポートに対応）、最大 100 件同時の PDF 一括ダウンロード、メールアラート／SDI 配信、PF レポート（別オプション）。API は AI セマンティック検索、AI 分類予測、PF スコア取得、類似キーワード取得、集計、公報テキストデータ取得を提供する。Word / CSV 出力は確認できなかった。

プラン	価格（税抜）
Free	無料（初月 30 回／月、以降 20 回／月の検索制限）
BASIC（個人事業主向け）	月払 10,000 円／年払 100,000 円
Mini（法人向け 1～4ID）	月額 20,000 円～29,800 円（中小企業割引あり）
Corp-XS	月額 30,000 円
Corp-S～XL	1ID あたり 月額 4,500 円～5,500 円（規模により変動）
Patentfield AIR	月額 30,000 円～（利用量に応じ複数プラン、BYOK プランあり）／Mini・Corp 契約が前提

表 3-17 Patentfield の料金体系

AIR の処理量の目安は、2 週間の無料トライアルで約 1,000 件の公報処理、月額 3 万円プランで GPT-4o-mini 使用時に約 2 万件の処理とされる。

3.4.9 実績・連携

導入社数・ユーザー数は公表されていない。公表されている導入事例は、小西・中村特許事務所、ピクシーダストテクノロジーズ、コニカミノルタコネクストである。特許庁との直接の連携は確認できないが、経産省・NEDO 主催 GENIAC-PRIZE（官公庁審査業務領域）での受賞があり、審査官による実機評価を受けている。教育連携として「第 6 回全国知財創造実践甲子園 2025」に Patentfield 賞を設置している。

3.5 Genzo AI

3.5.1 提供体制－事業会社知財部発の異色プレイヤー

項目	内容
提供会社	株式会社 Genzo AI
設立 / 資本金	2026 年 4 月 1 日 / 5,000 万円
出資比率	株式会社島津製作所 90% / 株式会社 IP Agent 10%
所在地	京都市中京区西ノ京桑原町 1（島津製作所本社内）
代表取締役社長	川村 亮太（島津製作所従業員）
主要役員	取締役執行役員 営業担当：坂本 聡（IP Agent 代表取締役社長）／社外取締役：阿久津 好二（島津製作所 知的財産部長）／アドバイザー：長澤 健一（元キャノン知財責任者）
上場	非上場（島津製作所は東証プライム上場）

表 3-18 Genzo AI 企業概要

Genzo AI は、5 社の中で唯一「事業会社の知財部が自ら培った業務ノウハウを製品化して外販する」というモデルを採る。島津製作所知的財産部は 2023 年から「ベテランの思考プロセス（暗黙知）を AI のプロンプトに変換する形式知化」に取り組んでおり、その成果が中核資産となっている。

3.5.2 製品構成－6 モジュール

モジュール	内容
① 届出・出願	開発資料から発明提案書を自動生成。明細書案生成は後続予定
② 翻訳	日本語明細書の英語・中国語翻訳（図面内テキスト対応は 2026 年 7 月以降予定）
③ 中間処理	拒絶理由通知への対応案・補正案の構築
④ 先行文献調査	特許性判断結果の出力
⑤ FTO（侵害予防）調査	自動検索・スクリーニング
⑥ 契約書レビュー	不利条項の指摘と修正案生成

表 3-19 Genzo AI の 6 モジュール

段階リリース方式を採り、2026 年 5 月上旬に届出・中間処理・翻訳の 3 モジュールを先行提供、夏以降に全 6 モジュールを揃える計画である。契約書レビューを知財プラットフォームに含めている点は 5 社の中で唯一であり、知財部門の周辺業務まで射程に入れた設計と言える。一方、無効資料調査、パテントマップ、ウォッチング／SDI、分類付与の専用機能は確認できなかった。

3.5.3 AI 技術

- **LLM**：OpenAI API（ChatGPT）および Google Gemini API をバックエンドとして利用（公式データ保護ページに明記）。独自基盤モデルの開発は確認できない。
- **中核となる独自資産はプロンプト**：島津製作所知的財産部が 2023 年から進めた、ベテランの思考プロセスの形式知化の成果。モデルではなく業務知識の埋め込みで差別化する設計思想である。
- **Human-in-the-Loop**：AI が論理的処理を担い、人が判断に集中する分担。ハルシネーション防止のため人の確認を経て確定する。

- **UI**：資料をドラッグ&ドロップし「生成」をクリック、対話形式で回答を得る方式。

ベクトル／セマンティック検索、RAG 構成の明示的な言及はなく、精度指標や特許取得済み技術の公表も確認できなかった。「AI エージェント」を明示的に標榜する記載もない。モジュール単位の半自動処理が中心であり、複数ステップの自律実行は公開情報では確認できなかった。

3.5.4 データベース・言語・料金

対応データベースは「連携外部 DB」との記載のみで、具体的な DB 名 (JPlatPat / USPTO / EPO / WIPO / CNIPA) および収録件数は公開されていない。非特許文献・論文への対応も確認できなかった。言語は日本語ベースで、翻訳モジュールが英語・中国語に対応する。出力ファイル形式 (Word / Excel 等) の明示もない。

料金は年額 100 万円～1,500 万円で、基本料金＋トークン従量課金のハイブリッド。企業規模・利用モジュール数に応じた個別見積りで、ユーザーID 数は無制限である。5 社の中では明らかに大企業向けの価格帯であり、ID 無制限という設計は「知財部門だけでなく研究開発部門全体に配る」ことを前提としている。

3.5.5 実績・セキュリティ

外販実績は、2026 年 5 月 17 日のトライアル提供開始が公表されているのみで、具体的な導入社名・社数は確認できない。一方、島津製作所内での 2025 年度の実証成果として、外部コスト年間 8,000 万円削減 (外部支出 20 億円規模に対して)、発明届出業務の工数 50%削減、特許スクリーニングの手作業 90%削減が公表されている。事業目標は 2026 年度 40 社、2030 年度 320 社・売上 15 億円で、ターゲットは大手電機・医薬・化学メーカーおよび大学・研究機関である。

- 顧客入力情報を AI モデルの学習その他の二次利用に使用しないことを、OpenAI・Google との契約で義務付け。不正利用防止目的の保持は最大 30 日で自動削除
- プロジェクトデータ・処理結果・設定情報は AWS 国内リージョンに保存
- ゼロアクセス設計：Genzo AI 社内の運営担当者は顧客データへのアクセス権を持たない
- ユーザーはいつでもデータを完全削除可能
- ISO 27001 / SOC 2 等の第三者認証取得は記載なし

データガバナンスの記述内容そのものは 5 社中でも詳細な部類だが、第三者認証を取得していない点は、認証を調達要件とする企業にとって障壁となりうる。設立から 4 ヶ月という段階を考慮する必要がある。

3.6 AI Samurai

3.6.1 提供体制

項目	内容
提供会社	株式会社 AI Samurai (法人番号 1010401120469)
設立	2015 年 9 月 11 日 (設立時社名: 株式会社ゴールドアイピー。2019 年 1 月 1 日に現社名へ商号変更)
資本金 / 従業員	1 億円 / 8 人 (gBizINFO)
所在地 / 代表	東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 4 階 / 代表取締役 白坂 一 (弁理士)
資本関係	2025 年 6 月 3 日、トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 (TTDC) が全株式を取得し完全子会社化。既存 VC の OUVVC も全株式を売却。非上場
特色	大阪大学・北陸先端科学技術大学院大学と連携した「発明創出 AI@認定企業」

表 3-20 AI Samurai 企業概要

5 社の中で最も長い歴史 (2015 年～) を持ち、かつ最も大きな資本構造の変化を経験したのが AI Samurai である。TTDC による完全子会社化の狙いは、TTDC の知財支援基盤「swimy」の開発チームと AI Samurai ONE / ZERO の開発チームを統合することにより、2025 年 11 月 6 日には swimy を機能継承・リブランドした「AI Ninja」がリリースされ、「AI Samurai シリーズ」として製品が統合された。

3.6.2 製品ラインナップ (2026 年 8 月時点)

製品	内容 / 状況
AI Samurai ONE	オールインワン型特許申請支援システム (検索・評価・作成・AI レビュー)
AI Samurai ZERO	生成 AI 活用の対話型特許書類作成システム
IP Samurai MCP サーバー	特許 DB と生成 AI を直結する「知財 AI エージェント」 (2026 年 7 月 2 日提供開始)
AI Ninja	TTDC 提供。旧「swimy」を機能継承・リブランド (2025 年 11 月 6 日)。発明提案から調査・分析までを担当
特許ウォーズ®	2026 年 6 月発表の次世代プラットフォーム構想
三人寄れば文殊の知恵	マルチ AI 発明創出機能 (2026 年 7 月 9 日、提供予定と発表)
【終了】IP LANDSCAPE 特許検索 / みんなの特許	ともに 2026 年 7 月 15 日にサービス終了

表 3-21 AI Samurai の製品ラインナップ

3.6.3 主要機能

AI Samurai ONE の 3 本柱 :

- **検索** : 簡単検索 (インクリメンタル+同義語サジェスト) / 詳細検索 (日米中横断、複数の可視化形式)
- **審査シミュレーション (評価)** : 発明内容を文章入力すると類似文献評価、国際特許分類 (IPC) 認定評価、クレームチャート出力を行い、特許取得可能性を A / B / C / D の 4 段階で評価。評価レポートを 10 秒で生成
- **作成** : 明細書ドラフトを約 3 分で自動生成、Word エクスポート、画面上で修正・編集

- **AI レビュー（2026 年 6 月 9 日追加）**：総合レビュー、参照符号の整合性表（Markdown 出力）、クレームのアンテシデント（先行詞）チェック、分野別レビュー（ソフト/AI、化学/材料、バイオ/医薬、光学/レンズ、機械/電気/制御）、組織独自レビュー項目の追加

調査タイプとしては、先行技術調査、クリアランス（FTO）調査、無効資料調査、日米中横断調査、AI 協働検索（Ninja モード）が提供される。5 社の中で「無効資料調査」を明示的に調査タイプとして掲げているのは、AI Samurai とサマリアの 2 社である。

AI Samurai ZERO：AI が発明について質問し、発明者が回答する（「回答生成ボタン」で AI が回答を自動作成）。対話中に先行技術調査も実施し、回答が自動的に特許文書に反映される。用途は研究開発（アイデア深掘り）、知財（発明会議～書類作成）、新規事業（アイデア発掘）。

3.6.4 AI エージェント機能 – IP Samurai MCP サーバー

2026 年 7 月 2 日に提供開始された「IP Samurai MCP サーバー」は、同社が明示的に「知財 AI エージェント」と呼称するものである。Model Context Protocol（MCP）により生成 AI（Claude 等）と特許データベースを直結し、情報整理からレポート作成まで一気通貫で AI が対応する。

対応業務は 10 分野に及ぶ－特許調査、競合分析、SDI、発明発掘、発明提案書作成、請求項作成、明細書作成、OA 対応、ポートフォリオ分析、知財戦略立案。通常 8 時間の作業を約 30 分に短縮するとされる。提供形態は「知財 AI エージェント活用支援プログラム」として、セキュアな基盤構築支援＋セミナー研修＋個社ワークショップの 3 層構成であり、全国 4 都市（東京・名古屋・大阪・福岡）でセミナーが展開された。「特許ウォーズ®」はこの MCP サーバーを活用した次世代プラットフォーム構想である。

MCP 対応は、本調査の 5 社中で Patsnap（Open Platform の MCP サーバー）と AI Samurai の 2 社のみが提供する。ユーザーが Claude 等の汎用 AI クライアントを主役に据え、そこから特許データベースを呼び出すという設計は、「自社 UI の中に閉じたエージェント」とは異なるエコシステム戦略である。ユーザー企業が既に生成 AI 環境を整備している場合、導入の心理的・技術的障壁が低い。

3.6.5 AI 技術・自社特許

- **LLM**：AI Samurai ONE は ChatGPT 搭載を明示（2023 年リリース時は GPT-3.5 と明記）。ZERO も ChatGPT を活用した対話型。現行のモデルバージョンは非公表。MCP サーバーは Claude 対応を明記。
- **基盤技術**：LLM 以前からの自然言語処理技術。検索式の作成経験がない担当者でも、研究概要などの文章を入力すれば先行調査を行える設計。
- **ハルシネーション対策**：MCP サーバーは実質的にツール呼び出し型であり、「実データを参照しハルシネーションを回避」と説明されている。

自社特許（2019 年 8 月時点で 7 件）：

- 特許第 6555704 号：学習型検索機能（検索結果への「good / bad」評価を学習し再検索、初回より精緻な結果を得る）
- 特許第 6550583 号：知財戦略 MAP（クレームの有効性と権利範囲を技術分野横断で文字表現によりマッピング）
- 特許第 6185209 号：チャット型知財支援システム（2015 年出願・2017 年登録、ZERO の基礎技術）
- そのほか特許評価アルゴリズム、クレームの文字可視化、特許マップ表示等。意匠登録 5 件出願中、商標「AI Samurai」「IP Samurai」

公表されている効率指標は、調査時間を最大 40%圧縮、特許調査コスト最大 40%削減、評価レポート 10 秒、明細書ドラフト約 3 分、MCP 利用時に通常 8 時間の作業を約 30 分。定量的な精度指標（再現率・適

合率) は公表されていない。

3.6.6 データベース・言語・料金

対応データベースは日本特許(特許庁 DB)、米国特許、中国特許の3カ国であり、全プラン共通、MCP サーバーも同様である。EPO、WIPO、非特許文献、論文への対応は確認できなかった。収録件数も非公表。入力/UI 言語および機械翻訳機能の有無も確認できなかった。5社の中では対応法域が最も限定的である。

出力は評価レポート、クレームチャート、A~Dの4段階評価、明細書ドラフトのWord エクスポート、AI レビューのMarkdown 形式整合性表。Excel 出力は確認できなかった。

現行の料金は非公開(「価格や詳細を聞いてみる」への誘導のみ、「20%特別割引キャンペーン中」の記載あり)。判明している具体額は過去情報のみで、AI Samurai RD&E プラン(IT 導入補助金 2021 時点)が通常 70 万円→補助金適用後 35 万円(12 ヶ月、初期費用 10 万円込、ID 1、調査機能 3 種から 1 つ選択)、終了済みの「みんなの特許」が税別 50,000 円/納期 3~5 営業日(先行技術調査リスト 500 件、類似度 A~D 評価、出願書類草案を納品)であった。現行プラン構成は AI 特許作成パック(11ID)、IP Elementary(10ID、優先検索 20 回)、IP Basic(50ID、優先検索 200 回)の3階層で、いずれも金額は非公開である。

3.6.7 実績・セキュリティ

代表的な顧客としてトヨタ、デンソーの名前が挙がっており、業種は輸送機器、電機、医薬、法律事務所等。企業・特許事務所・大学が対象である。具体的な導入社数は非公表。受賞歴は 2019 年グッドデザイン賞、第 4 回 JEITA ベンチャー賞(2019 年 3 月)、千代田ビジネス大賞優秀賞(2025 年 2 月)、経済産業省 IT 導入補助金 2021 採択事業者。2026 年 6 月 2 日には INTA「Open Innovation Challenge 2026」にピッチ登壇している。

ISO 27001、SOC 2 等の認証取得、およびデータの学習利用ポリシーは確認できなかった。MCP サーバー提供プログラムに「セキュアな基盤構築支援」が含まれるとの記載があるのみである。API については、従来型の REST API 公開は確認できず、MCP サーバーが実質的な連携基盤となっている。

第4章 横断比較

4.1 データ基盤の比較

項目	Patsnap Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
特許収録件数	2 億 1,000 万件	非公表	非公表	約 8,000 万件	非公開	非公表
遡及範囲	非公表	非公表	非公表	国別に公表（JP1971 年～、US1976 年～、DOCDB1782 年～）	非公開	非公表
非特許文献	2 億 1,630 万件	調査時に Web・文献査読を実施	確認できず	確認できず	確認できず	確認できず
対応法域	174 法域	JP/US/EP/WO+CN・KR 公報	JP/US/CN/KR/EP/PCT	JP/US/EP/CN/KR/TW/WO+DOCDB（100 カ国超）	非公開	JP/US/CN
特許以外の権利	意匠（Design FTO）、SEP	—	意匠・商標・審決（4 法対応）	意匠（JP/US/KR/EP/PCT）、類似画像検索	—	—
更新頻度	日次	確認できず	「瞬時に更新」（定量記述なし）	確認できず	確認できず	確認できず
自社検索 DB	保有（中核資産）	保有せず（第三者指摘）	保有	保有（中核資産）	外部 DB 連携	保有

表 4-1 データ基盤の比較

データ基盤の比較で決定的なのは、規模そのものよりも「開示しているかどうか」である。具体的な収録件数を公表しているのは Patsnap（2 億 1,000 万件）と Patentfield（約 8,000 万件）の 2 社のみで、遡及範囲まで国別に開示しているのは Patentfield のみである。調査の網羅性を事前に判断できるという意味で、これは実務上きわめて重要な情報であり、非公表の 4 社は導入前の個別確認が不可欠となる。

明確な差が出るのは以下の 3 点である。第一に、非特許文献（学術論文）のカバレッジ。研究開発段階での技術調査や新規性判断において論文は不可欠だが、これを大規模に収録しているのは Patsnap のみである。第二に、対応法域の広さ。Patsnap の 174 法域が突出し、Patentfield が DOCDB 経由で 100 カ国超をカバーして続く。AI Samurai の日米中 3 カ国は、欧州出願を視野に入れる企業には不足しうる。第三に、意匠・商標を含む権利種別の横断性。Tokkyo.Ai の 4 法対応、Patentfield の意匠・類似画像検索、Patsnap の意匠 FTO が、それぞれ異なる形でこの領域をカバーしている。

4.2 AI アーキテクチャの比較

項目	Patsnap Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
LLM	独自ドメイン特化型 PatsnapGPT	汎用（Azure OpenAI GPT 系+Claude 系を選択可）	汎用（GPT-3.5→GPT-4o）	汎用マルチモデル（GPT-4o/4o-mini/GPT-5-nano、Gemini、Claude）	汎用（OpenAI API +Google Gemini API）	汎用（ChatGPT。MCP は Claude 対応）
モデル名の明示	独自モデル名のみ	一部明示	一部明示（現行版は非公開）	◎ 世代まで明示	提供元のみ明示	一部明示（現行版は非公開）
独自特許特化モデル	○ PatsnapGPT（35 億件超で学習）	—	—	○ GENIAC 受賞技術（1,000 億トークン超。商用反映は未公表）	—	—
RAG 構成	明示（出典リンク）	明示なし	明示（特許 DB に基	明示なし	明示なし	MCP によるツール

項目	Patsnap Eureka	サマリヤ	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
	付与)		づく RAG)			呼出
独自資産	35 億件超の学習データ+140 以上のツール	保有特許 12 件	自社検索 DB+プライベート環境	自社 DB+独自基盤モデル+AI 分類予測	島津知財部の暗黙知プロンプト	特許 7 件 (学習型検索等)
自然言語入力	対応	対応 (検索式を自動生成)	対応	対応	対応 (資料 D&D)	対応
精度指標の公表	PatentBench (自社構築)	なし	なし	Recall@100 (自社公表)	なし	なし
BYOK (API キー持込)	—	—	—	○ 対応	—	—

表 4-2 AI アーキテクチャの比較

第 2 版の追加調査により、当初の「独自 LLM を持つのは Patsnap のみ」という構図は修正が必要となった。Patentfield が 2026 年 4 月に GENIAC-PRIZE 特別賞を受賞した特許特化基盤モデルは、1,000 億トークン超の特許専門データで学習し、審査官の思考プロセスを 3 つの専用 AI で再現する完全ローカルアーキテクチャである。ただしこれは研究開発成果であり、商用オプションの Patentfield AIR には現時点で反映されていない点に注意が必要である。

残る 4 社は汎用 LLM (OpenAI / Anthropic / Google) の API を利用し、プロンプト設計・ワークフロー設計・データ接続によって価値を出す構造である。この構造差は両面から評価する必要がある。

- **独自 LLM の利点**：特許固有の言語（クレーム構文、法域固有の用語）への適応、外部 API の価格変動やモデル廃止からの独立、精度に関する自社での検証・改善サイクル。Patentfield の完全ローカル構成は、機密性の要求が極めて高い用途で決定的な意味を持ちうる。
- **汎用 LLM 利用の利点**：基盤モデルの進化を即座に取り込める。サマリヤは用途別に GPT 系と Claude 系を使い分け、Patentfield AIR はユーザーが自分の API キーを持ち込む BYOK にも対応している。独自 LLM の学習・維持コストを負わずに済み、その分をワークフロー設計や日本の実務適合に投資できる。

モデル名の開示という観点では、Patentfield が突出している。使用モデルを世代 (GPT-4o、GPT-4o-mini、GPT-5-nano、Gemini 1.5 Flash、Claude 3.5 Sonnet) まで明示しているのは 6 社中同社のみである。逆に Tokkyo.Ai と AI Samurai は公式記載が GPT-3.5 / GPT-4o のままで、2026 年時点の現行モデルは非公開である。基盤モデルの世代は出力品質に直結するため、導入検討時には必ず個別確認すべきである。

4.3 AI エージェント成熟度の比較

サービス	成熟度	エージェント名	自律実行の内容	人間の関与
Patsnap Eureka	L3	Novelty Search Agent、FTO Search Agent ほか業務別に多数	アイデア入力→特徴抽出→最大 6 回の反復検索→構造化評価→出典付きレポート生成	レポートのレビュー
AI Samurai	L3	IP Samurai MCP サーバー	外部生成 AI (Claude 等) から特許 DB を直接呼び出し、情報整理からレポート作成まで一気通貫。10 業務分野に対応	AI クライアント上での対話
Tokkyo.Ai	L2~L3	MyTokkyo.Ai (ディープエージェント方式) / ChatTokkyo	複数の AI が役割分担して自律動作。アイデア整理→先行技術調査→差別化分析→提案書生成。思考プロセスを可視化	AI の推論過程を確認
サマリヤ	L2	Ask / Agent 2 モード	検索式自動生成 (最大 50 件) →予備検索→精	Agent 編集は必ずユーザー

サービス	成熟度	エージェント名	自律実行の内容	人間の関与
			度評価→統合→約 2,000 件のスクリーニング。 新規性・進捗性コメント付き報告書を自動生成	承認を経て反映、改訂履歴を保持
Patentfield AIR	L1	(標榜せず)	最大 1 万件の母集団に生成 AI プロンプトを一括パッチ適用。要約・翻訳・数値抽出・対比評価を並列処理	プロンプト設計と AI 出力の査読
Genzo AI	L1	(標榜せず)	モジュール単位で資料投入→生成。複数ステップの自律実行は確認できず	AI が論理的処理、人が判断という明確な分担

表 4-3 AI エージェント成熟度の比較 (成熟度の定義は表 2-1 を参照)

この軸で見ると、6 社は 3 つの設計思想に分かれる。

① **垂直統合型 (Patsnap Eureka)** : 自社プラットフォーム内に業務別エージェントを揃える。ユーザーは Eureka の UI に入り、Novelty Search Agent を選び、そこで完結する。強みは業務ごとに最適化された体験と、35 億件のデータへの直結。弱みは、ユーザーが既に持っている生成 AI 環境やナレッジベースとの分断である。

② **水平連携型 (AI Samurai の MCP サーバー、および Patentfield の API)** : ユーザーの生成 AI 環境に特許データベースを差し込む。ユーザーは Claude 等を主役に据えたまま、必要な時に特許 DB を呼び出す。強みは既存の AI 業務フローへの自然な統合と、社内文書と特許データを同一の対話の中で扱えること。弱みは、業務ごとの最適化がユーザー側のプロンプト力に依存することである。AI Samurai は公式に MCP サーバーを提供し、Patentfield は API を開放してユーザー側の自作を可能にしている。

③ **大量処理特化型 (Patentfield AIR)** : 「自律的に考える」ことを目指さず、「大量の文献を一括で処理する」ことに徹する。最大 1 万件の母集団に同一プロンプトを適用し、要約・翻訳・数値抽出・対比評価を並列で回す。スクリーニング工数という最大のボトルネックを直接殴りに行く設計であり、エージェント的な華やかさはないが、査読業務時間を約 65%削減という自社公表値は、この割り切りの結果である。

なお Patsnap も Open Platform で MCP サーバーを提供しており、Claude Desktop・Cursor・LangChain 等に対応している。したがって Patsnap は垂直統合と水平連携の両方を押さえている構図になる。ただし Open Platform は従量課金の別建てであり、Eureka の標準プランに含まれるものではない。

4.4 機能カバレッジ・マトリクス

業務	Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield	Genzo AI	AI Samurai
先行技術調査 / 新規性調査	◎ 専用 Agent	◎ 専用機能	○ 類似検索	◎ AI セマンティック検索 + AIR 査読	○ モジュール	◎ 審査シミュレーション
FTO / クリアランス調査	◎ 専用 Agent (意匠 FTO も)	○ 対比評価	△ 専用機能未確認	△ 対比評価で代替	○ モジュール	○ 調査タイプとして提供
無効資料調査	△ 明示なし	○ 対比評価	△ 未確認	△ 未確認	△ 未確認	○ 調査タイプとして提供
大量文献の一括査読	○ 反復検索 + 評価	○ 約 2,000 件	△ 未確認	◎ 最大 1 万件バッチ	○ スクリーニング	△ 未確認
明細書ドラフト作成	○ US/EP/CN 形式	◎ 日本語 + 50 項目チェック	○ ChatDraft	△ 未確認	△ 後続予定	◎ 約 3 分・Word 出力
発明提案書 / 届出書	○ Invention Disclosure	◎ 構造化 + 論理検証	○ ChatTokkyo	△ 未確認	◎ 中核モジュール	○ ZERO / AI Ninja
中間処理 (拒絶理由応答)	○ OAR Agent	◎ 意見書案・補正書案	△ 未確認	△ 未確認	◎ 中核モジュール	○ MCP で対応
特許翻訳	○ 中英日	○ 6 言語	○ WIPO Translate 連携	◎ 日本語横断検索 + AI サマリーグローバル	◎ 専用モジュール (英中)	△ 未確認
パテントマップ / 分析	◎ Landscape	○ ワンクリック生成	◎ 各種マップ	◎ 12 種以上のチャート + 引用連鎖	△ 未確認	△ 現行提供は未確認
ウォッチング / SDI	◎ Monitor・Pulse	◎ 定期監視	△ 未確認	◎ メールアラート / SDI 配信	△ 未確認	○ MCP で対応
特許価値評価 / スコアリング	○ 分析機能	○ 権利維持判断	◎ 特許価値評価 AI	◎ PF スコア (カスタム評価)	△ 未確認	◎ A~D 4 段階評価
分類付与 / 機械学習分類	○ 分類機能	○ AI 分類付与	△ 未確認	◎ AI 分類予測 (教師データ 1 万件)	△ 未確認	○ IPC 認定評価
R&D 向け技術探索	◎ TRIZ・DFMEA	○ 12 フレームワーク	○ IPGenius / IDX	△ 未確認	△ 未確認	○ AI Ninja
創薬 / 材料特化	◎ LS・Materials	—	—	—	—	—
契約書レビュー	—	—	—	—	◎ 専用モジュール	—
公開 API	◎ 160 以上 (MCP 対応)	△ 未確認	△ 未確認	◎ 6 種以上 (個別見積)	△ 未確認	○ MCP サーバー

表 4-4 機能カバレッジ・マトリクス ◎=専用機能として明示 ○=提供を確認 △=公開情報では確認できず —=提供なし

この表から読み取れる構図は次の通りである。

- **Eureka の独自領域**：創薬 (Eureka LS) と材料 (Eureka Materials) の専用エージェント群は、他の 5 社が一切カバーしていない。意匠 FTO、SEP 対応、TRIZ・DFMEA も突出している。
- **サマリアの独自領域**：日本語明細書の作成支援における深さ (50 項目以上のルールベースチェック、校閲記録付き Word 出力) と、中間処理の作り込み。弁理士法対応まで踏み込んでいる。
- **Tokkyo.Ai の独自領域**：意匠・商標・審決を含む 4 法横断と、特許価値評価 AI (市場影響度・競合ブロック力・将来マナタイズ確率等の数値化)。特許以外の権利を同一プラットフォームで扱えるのは同社のみである。
- **Patentfield の独自領域**：大量文献の一括査読 (最大 1 万件)、教師あり学習による AI 分類予測、PF スコアによるカスタム特許評価、類似画像検索。「調査母集団を作ってから大量に読み込む」という古典的な調査プロセスを、そのまま AI で加速する設計である。
- **Genzo AI の独自領域**：契約書レビュー。知財部門の業務は出願だけでなく契約実務を含むという実感に基づく設計であり、事業会社発ならではの発想と言える。

- **AI Samurai の独自領域**：審査シミュレーションによる A～D の 4 段階評価とクレームチャート出力。出願前の意思決定を定型化する仕組みである。

4.5 対応言語の比較

サービス	UI 言語	検索・入力言語	翻訳機能	日本語明細書作成
Patsnap Eureka	日本語 UI 対応 (Analytics)。Eureka 本体の対応範囲は未確認	多言語 (174 法域)	中国語・英語・日本語	未確認 (Drafting は US/EP/CN 形式)
サマリア	日本語	日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語 (有料)	特許翻訳への活用事例あり	対応 (従属クレーム展開・実施例含む)
Tokkyo.Ai	日本語	生成 AI 機能は日英。MyTokkyo.Ai は当初日本語のみ	WIPO Translate 連携 (第三者分析)	対応 (ChatDraft)
Patentfield AIR	日本語／英語	日本語横断検索 (主要国の全文翻訳検索)	© AIR に外国文献翻訳。AI サマリーグローバルで海外 8,000 万件を日本語化	未確認
Genzo AI	日本語	日本語ベース	英語・中国語 (専用モジュール)	後続予定 (現時点は発明提案書まで)
AI Samurai	未確認	日米中横断検索	未確認	対応 (約 3 分、Word 出力)

表 4-5 対応言語の比較

日本語対応という観点では、Patsnap Eureka が唯一、実務上の不確実性を残している。UI と Analytics の日本語対応は明確だが、Eureka のエージェント各々がどこまで日本語で入出力できるか、特に JPO 形式の明細書ドラフトを生成できるかは公開情報からは判断できない。日本語での特許明細書作成が主目的であれば、日本勢のいずれかが安全な選択となる。

一方、「海外文献を日本語で読む」という用途では Patentfield の作り込みが目立つ。日本語横断検索オプション (主要国の全文翻訳検索) と、海外特許 8,000 万件に日本語の AI 要約・分類ラベルを付与する AI サマリーグローバルの組合せは、日本語話者が海外調査を行う際の摩擦を直接的に減らす設計である。

多言語・多法域での調査そのものを主目的とする場合は、174 法域をカバーする Eureka の優位が動かない。サマリアの 6 言語対応は日本勢では突出しているが、対応法域自体は JP / US / EP / WO + CN・KR に留まる。

4.6 セキュリティ・データガバナンスの比較

項目	Patsnap Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
ISO 27001	○ 2022 版 (年次外部監査)	○ ISMS 認証 (2025 年 1 月)	確認できず	○ 2022 版	記載なし	確認できず
その他の認証	SOC 2 Type 1 (Type 2 は未確認)	確認できず	確認できず	ISO/IEC 27017:2015	記載なし	確認できず
AI 学習へのデータ利用	事前学習・再学習に一切使用しないと明記	明示的なポリシー文言は未確認	確認できず	学習目的に利用しないと明記。保持は最大 30 日	OpenAI・Google との契約で二次利用を禁止と明記	確認できず
データ保管	クラウド／オンプレ両対応。レジデンシー未公開	AWS 基盤	企業別専用 URL／オンプレミス版あり	専用クラウド環境オプション (月 5 万円～)	AWS 国内リージョン＋ゼロアクセス設計	確認できず

項目	Patsnap Eureka	サマリヤ	Tokkyo.Ai	Patentfield AIR	Genzo AI	AI Samurai
暗号化	TLS 1.3 / AES-256	SSL 暗号化通信	確認できず	確認できず	確認できず	確認できず
法規制対応	GDPR / CCPA 準拠	弁理士法第 75 条対応	確認できず	全省庁統一資格 C 等級	確認できず	確認できず

表 4-6 セキュリティ・データガバナンスの比較

第三者認証を取得しているのは Patsnap、サマリヤ、Patentfield の 3 社である。特に Patentfield は ISO/IEC 27001:2022 に加えクラウドサービス固有の管理策を定めた ISO/IEC 27017 も取得しており、6 社中で最も認証面が厚い。

ただし「確認できず」は「対応していない」を意味しない点に留意されたい。Tokkyo.Ai の企業別プライベート環境とオンプレミス版、Genzo AI のゼロアクセス設計と国内リージョン保管は、認証の有無とは別に評価に値する設計である。特に Genzo AI の記述は詳細で、運営担当者が顧客データにアクセスできないゼロアクセス設計、不正利用防止目的の保持を最大 30 日で自動削除といった具体性を持つ。設立 4 ヶ月の新会社であることを踏まえれば、第三者認証は今後の取得を待つ段階と見るのが妥当だろう。

日本企業の調達要件としてしばしば問題になるデータの国内保管については、Genzo AI（AWS 国内リージョン）が明確に保証し、Tokkyo.Ai と Patentfield がオンプレミス／専用環境という形で対応可能である。Patsnap はデータレジデンシーを公開していない。

4.7 料金の比較

サービス	無料枠	個人・小規模	法人・エンタープライズ	課金単位
Patsnap Eureka	あり（月 5,000 クレジット）	Pro 月\$100～（R&D）	要問い合わせ（SLA 99.9%、SSO）	クレジット
サマリヤ	あり（48 時間で 4 指示）	月¥8,000～¥15,000	コーポレート 月¥25,000～＋メンバー管理 月¥18,000～¥98,000	指示数
Tokkyo.Ai	あり（1 日 10 回）	1ID 月¥7,000（代理店）	初期¥120,000＋月¥35,000。MyTokkyo.Ai 月¥35,000（2026 年 4 月改定）	ID / 月額
Patentfield AIR	あり（月 20～30 回検索）	BASIC 月¥10,000／Mini 月¥20,000～	Corp 1ID 月¥4,500～＋AIR 月¥30,000～	ID＋AI 処理量
Genzo AI	なし（トライアルあり）	—（想定外）	年額¥1,000,000～¥15,000,000（ID 無制限）	基本＋トークン従量
AI Samurai	確認できず	非公開	非公開（IP Elementary 10ID / IP Basic 50ID）	ID / 優先検索回数

表 4-7 料金の比較

課金単位が「クレジット」「指示数」「ID 数」「AI 処理量」「トークン従量」とバラバラであるため、単純な金額比較は成立しない。実際の年間コストは利用量・利用人数・利用モジュールに強く依存する。表 4-7 は各社の価格帯の目安を示すものであり、序列を示すものではない。

価格帯という観点では明確に 3 層に分かれる。個人・小規模チームが月 1 万円台から始められるのがサマリヤ、Tokkyo.Ai、Patentfield。部門単位で月数万円～のレンジが Patsnap Eureka Pro、Tokkyo.Ai エンタープライズ、Patentfield Corp＋AIR。全社導入前提の年額 100 万円以上が Genzo AI である。AI Samurai は非公開だが、過去の RD&E プラン（年 70 万円）から推すと中間層と考えられる。

なお Patentfield AIR は、プラットフォーム本体（Mini 月 2 万円～または Corp 月 3 万円～）に AIR オプション（月 3 万円～）を積む構造であるため、実質的な最低ラインは月 5 万円程度となる。一方で AIR の月

額 3 万円プランは GPT-4o-mini 使用時に約 2 万件の公報処理が可能とされており、大量査読を前提とすれば単価は低い。

第 5 章 精度指標の検証

5.1 定量指標を公表している 2 社

本調査の 6 社中、定量的な精度指標を公表しているのは Patsnap と Patentfield の 2 社のみである。ただしいずれも自社公表値であり、以下の留保が必要である。

5.1.1 Patsnap 「汎用 LLM 比 60%高い精度」

英語公式サイトは「60% more accurate than leading general-purpose LLMs」、日本語公式サイトは「Claude のような汎用モデルと比較して 60% もさらに高い出力精度」と記載している。提供資料（PatSnap Japan ブログ）も同様の記述を含む。

この数値について、測定方法・データセット・評価条件はいずれも公開されていない。何を「精度」と定義したのか（回答の事実正確性か、検索結果の適合率か、専門家評価によるスコアか）も明示されていない。したがってマーケティング上の自社公表値として扱う以外にない。

なお提供資料には「一般的な AI ツールより 1.6 倍高い精度」という記載もあるが、本調査では Patsnap 公式サイト上でこの表現を確認できなかった。60%増を 1.6 倍と換算した二次的表現である可能性が高い。

5.1.2 Patsnap PatentBench

Patsnap は 2025 年 9 月 19 日に「特許特化 AI 向けの初の包括的ベンチマーク」として PatentBench を発表した。10 のコア特許能力（Q&A／解釈／翻訳／情報抽出／審査知識／要約／分類／ドラフティング／マルチターン対話／推論）と実タスク（新規性調査／FTO／翻訳／明細書作成／意匠侵害判定）を組み合わせた評価枠組みである。

モデル	X 文献検出率	X 文献リコール率
Patsnap	85%	37%
Claude Opus	52.37%	11.68%
Perplexity Pro	39.16%	6.40%
ChatGPT	17.18%	2.70%
Gemini	14.24%	2.39%
DeepSeek	11.08%	2.43%

表 5-1 PatentBench 新規性調査 (340 サンプル、US/CN/EP/WO の 4 庁、上位 100 件、2026 年 4 月 24 日更新)

モデル	高リスク特許ヒット率
Patsnap Eureka	77%
Gemini 3.1 Pro	3.71%
ChatGPT 5.4	0.93%

表 5-2 PatentBench 意匠 FTO 調査 (261 サンプル、US/CN/EU の 3 法域、上位 200 件)

Patsnap トップページの「意匠 FTO で 77% ヒット率、ChatGPT 比 83 倍」という訴求は、表 5-2 の $77 \div 0.93 \approx 83$ という計算に基づく。

5.1.3 PatentBench に関する 4 つの留保

13. ベンチマークの運営者が評価対象者と同一である。PatentBench は Patsnap 自身が構築・運営しており、独立性がない。
14. 同社サイト内で数値が食い違っている。Eureka IP のランディングページでは新規性調査について「Patsnap 81%、ChatGPT-o3 32%、DeepSeek-R1 9%」と、benchmark ページの 85% とは異なる比較対象・数値が掲載されている。比較対象モデルのバージョンと測定時期により値が変動しており、統一されていない。
15. 比較対象が「汎用 LLM」に限られている。Clarivate/Derwent、LexisNexis PatentSight、Questel Orbit といった特許データベース専門ベンダーとの比較は行われていない。汎用の ChatGPT や Gemini が特許検索で低スコアになるのは当然であり、専門ツールとしての相対的位置づけを示すものではない。
16. 再現手順が公開されていない。テストセットの公開有無や再現手順が明記されておらず、外部の独立検証は確認できない。

5.1.4 Patentfield 「Recall@100 42.22% → 70.22%」

Patentfield は 2026 年 4 月の GENIAC-PRIZE 受賞発表において、審査官引用実績を用いた対照学習により Recall@100 を 42.22% から 70.22% へ改善したと公表している。加えて、クエリ例「樹脂をコーティングした金属板の製造方法」において適合率が約 3.8 倍向上したとしている。

この指標には、本調査で確認できた数値の中で最も筋の良い点が 2 つある。第一に、Recall@100 という指標そのものが実務的意味を明確に持つ。特許調査で最も重大なリスクは調査漏れであり、「上位 100 件の中に正解文献を含められた割合」は漏れリスクの直接的な尺度である。第二に、正解データとして審査官の引用実績を用いている。これは人間の主観評価ではなく、審査という制度上の判断が生んだ客観的な正解データである。

ただし留保も必要である。ベンチマーク条件（対象技術分野、サンプル数、比較対象システム）は非公開であり、外部検証も存在しない。また 42.22% → 70.22% という改善は自社システムの改善前後の比較であり、他社製品との比較ではない。さらに、この数値は GENIAC-PRIZE 受賞対象の研究開発システムに関するものであり、商用オプションである Patentfield AIR の性能を直接示すものではない。

Patsnap の 85% と Patentfield の 70.22% を直接比較することはできない。前者は「X 文献検出率」（上位 100 件、340 サンプル、4 庁）、後者は「Recall@100」であり、対象データセットも評価条件も異なる。同じ土俵に乗せた比較は現時点で不可能である。

5.1.5 USPTO 特許弁理士試験（Patsnap）

Patsnap は、200 問の多肢選択式である USPTO 特許弁理士試験（Patent Bar Exam）において、PatsnapGPT-1.0 が 74 点（合格ライン 70 点）を取得し、GPT-4 を含む商用 LLM は 70 点に達しなかったと主張している。これも自社公表値であり、実施時期の明記もない。

5.2 残る 4 社の指標

サマリア、Tokkyo.Ai、Genzo AI、AI Samurai は精度指標を一切公表しておらず、代わりに効率指標を訴求している。

サービス	公表されている効率指標
サマリア	スクリーニングで約 2,000 件の特許文書を読み込み、「従来 20 時間を要した全文確認」を自動実行。検索式を最大 50 件自動生成

サービス	公表されている効率指標
Tokkyo.Ai	AI テキスト検索が約 1 秒で類似特許を返す。出願依頼文の作成が 1 件 10～20 時間→1～2 時間以内（約 90%削減）。特許出願準備が 10 時間→1 時間未満。ナミックス社では先行技術確認が数週間～数か月→1 時間程度
Patentfield	査読業務時間 約 65%削減、調査工数 最大 80%削減（いずれも自社公表値）。顧客事例（コニカミノルタコネク）で工数最大 40%削減
Genzo AI	島津社内実証で、外部コスト年間 8,000 万円削減、発明届出業務の工数 50%削減、特許スクリーニングの手作業 90%削減
AI Samurai	調査時間を最大 40%圧縮、特許調査コスト最大 40%削減、評価レポート 10 秒、明細書ドラフト約 3 分、MCP 利用で通常 8 時間の作業を約 30 分

表 5-3 効率指標の公表状況

これらは「どれだけ速く／安くなるか」を示すが、「どれだけ漏れなく／正しく調査できるか」は示さない。特許調査において最も重大なリスクは調査漏れであり、速度の向上が漏れの増加を伴っていないかは、効率指標からは判断できない。

相対的に信頼性が高いのは、実際の業務での運用実績に基づく数値である。Genzo AI の「スクリーニングの手作業 90%削減」は島津製作所の社内実証、Tokkyo.Ai のナミックス社事例、Patentfield のコニカミノルタコネク事例は、いずれも特定企業での実測である。ただしいずれも単一企業の内部数値であり、一般化はできない。

5.3 精度に関する本レポートの結論

現時点において、6 サービスの調査精度を横並びで比較できる客観的な根拠は存在しない。導入判断にあたっては、自社の実際の技術分野・過去の調査案件を用いた PoC（実証）を行い、既知の重要文献を検出できるかを各社で並行検証することを強く推奨する。Patsnap（月 5,000 クレジット）、サマリア（48 時間で 4 指示）、Tokkyo.Ai（1 日 10 回）、Patentfield（月 20～30 回検索、AIR は 2 週間・約 1,000 件のトライアル）はいずれも無料枠またはトライアルを提供しており、この検証は実施可能である。

検証の設計にあたっては、以下を推奨する。①過去に自社で実施した調査案件のうち、審査で実際に引用された文献が判明しているものを 10～20 件選ぶ。②各サービスに同じ発明内容を投入し、上位 100 件（あるいは各社の標準出力件数）の中に当該引用文献が含まれるかを確認する。③検出できた件数（実質的な Recall@100）と、スクリーニングに要した時間を記録する。この 2 軸で比較すれば、各社の公表値に依存せずに自社基準での優劣を判断できる。

第6章 考察－6 サービスのポジショニング

6.1 2つの軸で見た分布

第3章・第4章の分析を踏まえると、6 サービスは「データ基盤の広さ」と「日本の出願実務への密着度」という2つの軸で整理できる。

	日本実務への密着度：高	日本実務への密着度：中～低
データ基盤：広い（多法域・遡及範囲を公表）	Patentfield AIR 約8,000万件・8地域+DOCDB。国別遡及範囲を公表。日本語横断検索とAIサマリーグローバルで海外文献を日本語化	Patsnap Eureka 174法域・NPL 2.16億件・創薬/材料エージェント。ただしJPO形式の明細書作成は未確認
データ基盤：中程度	サマリア 6言語・JP/US/EP/WO。日本語明細書作成と中間処理に強い。弁理士法対応まで実装	Tokkyo.Ai 4法横断・6地域。プライベート検索環境と特許価値評価AIが差別化点
データ基盤：限定的または非公開	AI Samurai 日米中3カ国。審査シミュレーションとMCPエージェント Genzo AI 島津知財部の暗黙知。届出～中間処理～契約書レビュー	（該当なし）

表6-1 2軸によるポジショニング

第2版でPatentfieldを加えた結果、当初空白だった「データ基盤が広く、かつ日本実務に密着している」象限が埋まった。Patentfieldは日本発でありながらDOCDB経由で100カ国超をカバーし、かつ海外文献を日本語で読ませる機能を厚く作り込んでいる。Patsnap Eurekaの「データは広いが日本語対応が不透明」という弱点を、日本勢の側から突く位置にある。

6.2 Patsnap Eurekaの本質的な差別化要因

Eurekaの優位は「AIエージェントである」ことそのものではない。日本勢も同様の機能を持ち始めている。本質的な差は3点に集約される。

17. **データ基盤の広さと深さ。**174法域・非特許文献2.16億件・法的データ16億ポイント・日次更新という規模は、日本勢が短期間で追従できるものではない。特に非特許文献のカバレッジは、R&D段階での技術調査において決定的な差になる。
18. **ドメインの広がり。**知財だけでなく、R&D（TRIZ、DFMEA）、創薬（マーカッシュ構造クレーム、抗体-標的予測）、材料（合金調査、処方設計）まで専用エージェントを揃えている。日本勢はいずれも知財業務に限定されており、この領域はほぼ無競合である。
19. **独自LLMの保有と運用実績。**35億件超の専門データで訓練したPatsnapGPTは、外部APIへの依存を断ち、特許固有の言語への適応を自社でコントロールできる。Patentfieldも同種のモデルを研究開発しているが、商用反映は未公表であり、実運用の実績ではPatsnapが先行している。

6.3 Patsnap Eurekaの留意点

- **日本語・JPO形式への対応が不透明。**第3.1.6節で述べた通り、日本語明細書作成への対応は公開情報から確認できない。日本国内出願業務が中心の組織にとっては致命的になりうる論点である。

- **精度に関する第三者検証がない。**Gartner Peer Insights のレビューが 0 件であり、独立系の定量評価が事実上存在しない。第三者レビュー（R&D World, 2025 年 7 月）は「試した中で最も柔軟」「非自明な特許間の関連を発見できる」と評価する一方、「クエリの質に結果が大きく左右される」「複雑・漠然とした質問では結果が不安定」と指摘している。
- **データレジデンシーが非公開。**日本国内保管を要件とする企業には確認が必要である。
- **価格の不透明性。**公式サイト内で表示価格に揺れがあり、日本語サイト・代理店ページには価格記載がない。実質的に個別見積となる。

6.4 日本 5 社それぞれの位置づけ

サマリアー 日本の出願実務における最有力

日本語での明細書作成・中間処理という、日本の知財部門の中核業務に対して最も作り込みが深い。50 項目以上のルールベース明細書チェック、校閲記録付き Word 出力、意見書案・補正書案のドラフト、弁理士法第 75 条対応まで踏み込んでいる点は、弁理士が創業した企業らしい設計である。料金の透明性（無料～月 2.5 万円）と導入実績 196 社も評価できる。弱点は自社の全文検索データベースを保有していないこと、IPC 等を用いた複合条件検索に対応していないとの指摘があること、収録件数が非公表であることである。

Tokkyo.Ai – プライベート検索と特許価値評価

「検索クエリを社外に出さない」という設計思想は、他社にない明確な差別化点である。企業が何を調査しているかは、それ自体が経営情報であり、この懸念は実在する。加えて特許・意匠・商標・審決の 4 法横断は日本勢で唯一であり、2026 年に投入した特許価値評価 AI（市場影響度スコア、競合ブロック力、将来マネタイズ確率推定等）も他社にない機能である。RAG 構成を公式に明言している点も、日本勢では Tokkyo.Ai のみである。

一方、本調査における最大の課題は依然として情報開示の不足である。再調査でも公式サイト上の主要ページにアクセスできず、収録件数・遡及範囲・更新頻度・セキュリティ認証・現行 LLM のいずれも確認できなかった。ただし今回、運営会社の商号変更（2025 年 1 月に Tokkyo.Ai 株式会社 → リーガルテック株式会社）、資本金約 3.8 億円、代表者、実名の導入企業（ピクシーダストテクノロジーズ、ナミックス、東京工業大学）、対応国・権利種別、価格の実額といった重要事項を新たに確認できており、評価可能性は大きく改善している。

Patentfield AIR – 「大量に読む」に特化した割り切り

6 社の中で最も設計思想が明快である。AI エージェントを標榜せず、「検索で作った母集団を最大 1 万件まで一括で AI に読ませる」という一点に絞り込んでいる。特許調査の実務で最も時間を食うのはスクリーニングであり、そこを直接叩く設計は合理的である。査読業務時間 約 65%削減という自社公表値は、この割り切りの結果と理解できる。

技術面での特筆事項は 3 点ある。第一に、使用 LLM のモデル名を世代まで開示し、BYOK（ユーザー自身の API キー持ち込み）にも対応している点。透明性とコントロール性の両面で 6 社中随一である。第二に、収録件数と国別遡及範囲を公表している点。調査の網羅性を事前に判断できる。第三に、GENIAC-PRIZE 受賞の独自基盤モデルであり、1,000 億トークン超の特許データ学習・審査官思考プロセスの再現・完全ローカル動作という構成は、Patsnap の PatsnapGPT に対抗しうる唯一の日本勢の取り組みである。

留意点としては、明細書作成・中間処理・発明提案書といった「書く」業務の機能が確認できないこと、

FTO・無効資料調査の専用モードがないこと、GENIAC 受賞技術の商用反映時期が未公表であること、そして資本金・従業員数が非公表で企業規模が見えにくいことが挙げられる。

Genzo AI – 事業会社知財部の暗黙知という資産

技術的には汎用 LLM の API 利用であり、突出した要素はない。価値の源泉は島津製作所知的財産部が 2023 年から進めた「ベテランの思考プロセスの形式知化」であり、これはモデルではなく業務知識の資産化である。契約書レビューをスコープに含めた点も、実務から発想した設計であることを示している。ただし 2026 年 4 月設立・5 月トライアル開始という段階であり、全 6 モジュールが揃っていない、外販実績が未公表、第三者認証がない、対応 DB が非公開といった不確実性が大きい。年額 100 万～1,500 万円という価格帯も、大企業向けに明確に振り切っている。評価は 1 年後に再度行うべき対象である。

AI Samurai – MCP によるエコシステム戦略

IP Samurai MCP サーバーは、6 社の中で最も先進的なアーキテクチャ判断と言える。自社 UI に閉じず、ユーザーが既に使っている生成 AI クライアントから特許データベースを呼び出せるようにする発想は、生成 AI が業務に浸透した組織ほど価値が高い。審査シミュレーションによる A～D 評価とクレームチャート出力も、出願可否の意思決定を定型化する実務的な機能である。一方、対応法域が日米中 3 カ国と最も限定的であること、現行料金が非公表であること、認証・データ学習ポリシーが不明であること、2026 年 7 月に 2 サービスを終了しており製品ラインナップが流動的であることは、留意点である。TTDC による子会社化と製品統合が進行中であり、こちらも動きの大きい対象である。

6.5 業界固有のリスク – 生成 AI 関連特許をめぐる係争

本調査で明らかになった重要な事実として、対象 6 社のうち 2 社が生成 AI 関連の特許権をめぐる係争していた点を記録しておく。

時期	出来事
2024 年 9 月 3 日	Patentfield が警告書を受領
2024 年 10 月 25 日	パテント・インテグレーション（サマリ提供元）が東京地裁に第 1 次提訴（請求項 4 件）
2024 年 11 月 26 日	第 2 次（追訴）提起（請求項 2 件）
2024 年 12 月 24 日	第 3 次（追訴）提起（請求項 6 件）。以上、計 6 事件が係属
2025 年 2 月 5 日	Patentfield が自社見解を公表。「訴訟対象は Patentfield AIR の一部機能に限定される」と反論し、サービス停止予定はないと明言
2026 年 4 月 17 日	民事調停法第 17 条に基づく「調停に代わる決定」が確定し、その余の事件が取り下げられて終了
2026 年 4 月 24 日	Patentfield が GENIAC-PRIZE 特別賞「技術新規賞」受賞を発表

表 6-2 サマリ（パテント・インテグレーション）対 Patentfield の経緯

原告が主張した対象技術は、①特許文書から高品質なサマリを作成する技術、②特許情報解析時の分類付け技術、③侵害予防調査等の構成対比技術、④権利化時の拒絶対応支援技術の 4 分野とされる。対象特許の番号は双方とも開示していない。

結果は判決でも通常の和解でもなく、「調停に代わる決定」の確定である。これは裁判所が職権で示す解決案で、2 週間以内に異議がなければ裁判上の和解と同一の効力を持つ制度であり、双方が異議を出さずに受け入れたことを意味する。勝敗・和解条件・金銭授受はいずれも非公表であり、性質上「一方の全面勝訴」とは言えない中立的・妥協的解決である。

導入検討者にとっての含意：原告側は終了リリースに「他の特許情報サービス提供企業におかれましては、Patentfield 株式会社が提供するプログラムと同等機能を有するプログラムを提供した場合において、当社特許権の行使を免れるものではない」と付記している。これは他社に対する権利行使の意思表示と読める。生成 AI による特許要約・分類付与・構成対比・拒絶対応支援といった機能は多くのサービスが提供しており、この分野の特許リスクは今後も残ると考えるのが妥当である。なお Patentfield AIR は現在も提供継続中であり、訴訟終了直後に GENIAC-PRIZE 受賞を発表するなど、事業への深刻な影響は見られない。

第7章 結論と選定の指針

7.1 結論

Patsnap Eureka は、データ基盤の規模・ドメインの広さ・独自 LLM の運用実績という 3 点において、日本勢とは異なる次元の製品である。特に非特許文献 2.16 億件を含む 174 法域のデータ基盤と、創薬・材料領域まで及ぶエージェント群は、日本勢が持たない資産である。

しかし「だから Eureka が優れている」という単純な結論にはならない。第一に、精度の優位は自社公表値のみで裏付けられており、独立検証が存在しない。第二に、日本国内出願の明細書作成という日本の知財部門の中核業務については、日本勢の方が明確に作り込みが深く、Eureka の対応可否は公開情報から確認すらできない。第三に、AI エージェント機能そのものは、もはや Eureka の専有物ではないーサマリア、Tokkyo.Ai、AI Samurai がいずれも 2025～2026 年に同種の機能を投入している。

第2版で Patentfield を加えたことにより、この構図はさらに複雑になった。Patentfield は約 8,000 万件・8 地域+DOCDB のデータ基盤と国別遡及範囲の開示、海外文献を日本語で読ませる機能群、そして GENIAC-PRIZE 受賞の独自特許特化基盤モデルを持つ。「グローバル調査は海外製、日本語実務は国産」という単純な役割分担が、日本勢の側から崩されつつある。

したがって現実的な結論は、「Eureka と日本製サービスは代替関係ではなく補完関係にあり、その補完の境界線は動きつつある」というものである。創薬・材料・R&D 探索と非特許文献を含む網羅調査は依然として Eureka の独壇場だが、多法域の特許調査という中核領域では Patentfield が実用的な選択肢となり、日本語での出願実務はサマリアや AI Samurai が担うーという三層の併用が、多くの日本企業にとって合理的な解になる。

7.2 用途別の選定指針

主目的	第一候補	理由
非特許文献を含む網羅的な先行技術調査	Patsnap Eureka	NPL 2.16 億件・174 法域のカバレッジは代替が効かない
多法域の特許調査（海外文献を日本語で読みたい）	Patentfield AIR	8 地域+DOCDB（100 カ国超）、日本語横断検索+AI サマリアーグローバルで海外 8,000 万件を日本語化
大量文献のスクリーニング工数削減	Patentfield AIR	最大 1 万件の一括生成 AI 査読。査読業務時間 約 65%削減（自社公表値）
日本語での明細書作成・中間処理	サマリア	50 項目チェック・校閲記録付き Word 出力・意見書案/補正書案・弁理士法対応。導入 196 社の実績
R&D エンジニアによる技術探索（TRIZ・実現可能性評価）	Patsnap Eureka	Find Solutions、DFMEA、Quick Research、Solution Feasibility は他社が持たない
創薬・材料開発領域	Patsnap Eureka	Eureka LS / Materials は完全に無競合
意匠・商標を含む 4 法横断調査	Tokkyo.Ai	日本勢で唯一、特許・意匠・商標・審決を同一プラットフォームで扱える
調査意図の秘匿を最優先	Tokkyo.Ai / Patentfield	Tokkyo.Ai はプライベート特許検索®とオンプレミス版、Patentfield は専用クラウド環境と BYOK
特許ポートフォリオの価値評価	Tokkyo.Ai / Patentfield	Tokkyo.Ai は特許価値評価 AI、Patentfield は PF スコアによるカスタム評価
既存の生成 AI 環境への統合	AI Samurai / Patsnap Open Platform	ともに MCP サーバーを提供。Patentfield も API 開放によりユーザー側での自作が可能

主目的	第一候補	理由
出願可否の定型的な意思決定	AI Samurai	審査シミュレーションによる A～D 4 段階評価とクレームチャート出力
知財部門の全業務の DX（契約書レビューを含む）	Genzo AI	届出～翻訳～中間処理～調査～契約書レビューを 6 モジュールで統合。ID 無制限
小規模チームでの試行	サマリア / Tokkyo.Ai / Patentfield	月 1 万円台から開始可能。無料枠も実用的な範囲を提供

表 7-1 用途別の選定指針

7.3 導入検討時に必ず確認すべき事項

本調査で「公開情報では確認できず」となった項目のうち、導入判断に直結するものを以下に挙げる。ベンダーへの質問リストとして利用されたい。

全社共通

- 現行の基盤 LLM のモデル名とバージョン（特に Tokkyo.Ai、AI Samurai は公式記載が旧世代のまま）
- 自社の技術分野における実データでの検出率（既知の引用文献を用いた PoC。第 5.3 節に設計方法を記載）
- 入力データの AI 学習利用に関する契約上の明文
- データ保管リージョンとサブプロセッサ一覧
- 生成 AI 関連の第三者特許に関する補償条項の有無（第 6.5 節の係争を踏まえて）

Patsnap Eureka

- JPO 形式の日本語明細書ドラフト生成に対応するか
- 各エージェントの日本語入出力の対応範囲
- データレジデンシー（国内保管の可否）
- 日本語サポート体制と、代理店経由／直販のいずれになるか
- Open Platform（MCP サーバー）利用時の追加費用

サマリア

- 自社検索データベースを持たない構成が、自社の調査要件（IPC 等の複合条件検索）を満たすか
- 収録範囲（対応公報の種別と遡及年）

Tokkyo.Ai

- 収録件数と各法域の遡及範囲、更新頻度
- セキュリティ認証の取得状況とデータ保管場所
- MyTokkyo.Ai / エンタープライズ版・オンプレミス版の正式価格
- FTO 調査・無効資料調査・ウォッチング（SDI）への対応方法
- Excel / Word / CSV へのエクスポート可否

Patentfield AIR

- GENIAC-PRIZE 受賞技術の商用製品への反映時期とロードマップ
- 明細書作成・中間処理・発明提案書作成への対応予定
- FTO 調査・無効資料調査を専用ワークフローとして実施できるか

- 非特許文献・論文への対応予定
- AIR のプラン別の処理件数上限と、超過時の課金
- 公式 MCP サーバー提供の予定

Genzo AI

- 連携する外部データベースの具体名と収録範囲
- 全 6 モジュールの提供時期
- 外販実績（トライアル以外の本番導入）

AI Samurai

- 現行料金と各プランの機能差
- 欧州（EPO）・PCT への対応予定
- TTDC による製品統合の今後のロードマップ（AI Ninja との関係）

付録 A 「公開情報では確認できず」の項目一覧

本レポートの調査で確認できなかった項目を、透明性のために列挙する。これらは「機能が存在しない」ことを意味するものではない。

サービス	確認できなかった項目
Patsnap Eureka	正確な従業員数／2021 年 Series E 以降の企業評価額／「60%高い精度」の測定方法・データセット／「1.6 倍高い精度」の公式ソース／PatsnapGPT のベースモデル・パラメータ数・ファインチューニング手法／ハルシネーション率の実測値／PatentBench のテストセット公開と再現手順／Eureka 本体の日本語対応の正確な範囲（JPO 形式の明細書作成対応の可否を含む）／SOC 2 Type 2／データレジデンシーとサブプロセッサ一覧／日本国内の導入社数
サマリア	株主構成／収録件数／ベクトル・セマンティック検索や RAG 構成の明示／定量的精度指標／SOC 2／入力データの AI 学習利用に関する明示ポリシー／公開 API の有無／非特許文献・論文 DB の収録
Tokkyo.Ai	従業員数／収録件数／遡及範囲（収録開始年）／データソースの一次名称／更新頻度の定量表現／2026 年時点の現行 LLM モデル／ベクトル検索の実装詳細／定量的精度指標／FTO・無効資料調査の専用機能／ウォッチング・SDI 機能／Excel・Word・CSV 出力／導入社数／ISO 27001・SOC 2 等の認証／入力データの AI 学習利用ポリシー／データ保管場所／API・MCP 対応／MyTokkyo.Ai の公式価格表／公式サイト主要ページ（HTTP 403 のため未取得）
Patentfield AIR	資本金／正式な従業員数／2019 年以降の資金調達額・全株主構成／保有特許の具体的番号／導入社数・累計ユーザー数／AI サマリー生成に用いる LLM のモデル名／AI セマンティック検索の内部実装（ベクトル検索・埋め込み・RAG の採否）／非特許文献・論文への対応／公式 MCP サーバーの提供有無／Word・CSV 出力の可否／P マーク・SOC 2 認証／GENIAC 受賞技術の商用反映時期／訴訟の対象特許番号・和解条件
Genzo AI	対応 DB の具体名と収録件数／出力ファイル形式／導入企業名・社数／第三者セキュリティ認証／顧客向け API／ベクトル検索・RAG の採用有無／公表精度指標
AI Samurai	現行料金の具体額／収録件数／EPO・WIPO・非特許文献の対応／対応言語と機械翻訳／導入社数／ISO 27001 等の認証／データ学習利用ポリシー／現行 LLM のモデルバージョン／公表精度指標

付録 B 主な出典

B.1 Patsnap Eureka

- Patsnap Eureka 公式 (eureka.patsnap.com、eureka.patsnap.com/rd-landing、eureka.patsnap.eu/ip-landing、eureka.patsnap.com/ls-landing)
- Patsnap 公式 (patsnap.com、patsnap.com/ai、patsnap.com/ai/llm/、patsnap.com/products/eureka/、patsnap.com/products/analytics/)
- PatentBench (patsnap.com/benchmark、および 2025 年 9 月 19 日の発表ブログ)
- 料金 (patsnap.com/pricing)、Trust Center (patsnap.com/trust-center/)、About (patsnap.com/about/)
- Patsnap 日本語公式 (patsnap.jp、patsnap.jp/products/eureka/、patsnap.jp/customers/)
- Patsnap Open Platform (open.patsnap.com)、ヘルプセンター (help.patsnap.com)
- PatSnap Japan 「AI エージェントが変える特許調査の現場 – 「Patsnap Eureka」 が実現する知財×R&D の新ワークフロー」 (2026 年 7 月 26 日、ユーザー提供資料)
- R&D World 「Hands-on with Patsnap's Eureka Scout」 (2025 年 7 月 17 日)
- NUS News、TechCrunch、PR Newswire、Tracxn / PitchBook (設立・資金調達・従業員推計)
- パトコア株式会社、中央光学出版株式会社、株式会社アイデア (日本の販売代理店)

B.2 サマリア (パテント・インテグレーション株式会社)

- 公式 (patent-i.com/summaria/、patent-i.com/summaria/fee、patent-i.com/ja/vision/、patent-i.com/ja/news/)
- PR TIMES : 調査支援機能リリース (基本特許 7788120/7788121/7788122)、明細書作成支援機能 (2026 年 3 月 19 日)、発明提案書作成支援機能、定期監視 (SDI) ・一括指示機能、弁理士法対応強化、審査官ラボ連携
- patent-i.com/ja/news/84・85・86 (特許権侵害訴訟の提起・追訴)、patent-i.com/ja/news/88 (訴訟終了、2026 年 4 月 17 日)
- りそな中小企業振興財団 受賞資料 (第 37 回 中小企業優秀新技術・新製品賞)、@Press (提供開始リリース)
- 第三者解説 : 知財の楽校 (patentamuse.com)、萬 IPSC 分析資料

B.3 Tokkyo.Ai (リーガルテック株式会社)

- 公式 (www.tokkyo.ai/pvt/function/、/pvt/gpt/、/pvt/notice/case1/、/tokkyo-wiki/、search.tokkyo.ai/ipr) ※会社概要・価格・製品トップ・AI エージェント詳細の各ページは HTTP 403 のため未取得
- PR TIMES (リーガルテック株式会社、company_id=42056) : MyTokkyo.Ai 提供開始、ナミックス導入事例、接客ロボット事例、インフラ点検ロボット事例、大手製造業との PoC、特許価値評価 AI、資金調達 (累計 3.8 億円)、ULTRA、Illuminator
- note (tokkyo_ai 公式アカウント) : MyTokkyo.Ai とは、ChatTokkyo 実践シリーズ
- 全国法人リスト (法人番号 5010401158646、2025 年 1 月 20 日 商号変更)
- 販売チャンネル : DX Store、株式会社プロパティ

- 第三者：VOIX（ディープエージェント方式、価格改定）、generatived（RAG 採用）、AIsmile、ロボスタ、萬 IPSC 比較分析

B.4 Patentfield AIR（Patentfield 株式会社）

- 公式（patentfield.com、product.patentfield.com、product.patentfield.com/air、en.patentfield.com/service、en.patentfield.com/news）
- サポートサイト（support.patentfield.com：Patentfield AIR 生成 AI 調査・分析オプション、API 連携）
- PR TIMES：AIR リリース（2024 年 7 月 1 日）、AI サマリーグローバル（2025 年 10 月 1 日）、訴訟終了（2026 年 4 月 17 日）、GENIAC-PRIZE 技術新規賞 受賞（2026 年 4 月 24 日）、JBS からの第三者割当増資、API 連携サービス提供開始
- en.patentfield.com/news/278「生成 AI 特許権侵害訴訟における当社見解」（2025 年 2 月 5 日）
- gBizINFO（法人番号 7130001059685）、INITIAL、STARTUP DB、NIKKEI COMPASS、Wantedly
- 第三者：evort（AIR 機能解説）、note（Patentfield API + MCP による知財 AI エージェント開発事例）、VOIX

B.5 Genzo AI

- 公式（genzo-ai.co.jp、genzo-ai.co.jp/security.html）
- 島津製作所プレスリリース「知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立」
- 日本経済新聞、電波新聞デジタル（2026 年、新会社設立・外販方針）
- 株式会社 IP エージェント（ip-agent.com）、萬 IPSC 調査レポート

B.6 AI Samurai

- 公式（aisamurai.co.jp、[/company/](https://aisamurai.co.jp/company/)、[/news/](https://aisamurai.co.jp/news/)、[/aisamuraione/](https://aisamurai.co.jp/aisamuraione/)、[/aisamuraizero/](https://aisamurai.co.jp/aisamuraizero/)、[/landingpage/](https://aisamurai.co.jp/landingpage/)）
- PR TIMES：特許権 7 件取得（2019 年 8 月 19 日）、ChatGPT 搭載 AI Samurai ONE 先行予約（2023 年）、生成 AI 特許文書レビュー（2026 年 6 月 9 日）、知財 AI エージェント IP Samurai MCP サーバー提供開始（2026 年 7 月 2 日）
- AI Samurai「新機能発表会 2026「特許ウォーズ®」始動」（2026 年 6 月 26 日）
- TTDC プレスリリース／公式 PDF「株式会社 AI Samurai の完全子会社化のお知らせ」（2025 年 6 月 3 日）、OUVC（株式売却）
- レスポンス「TTDC、AI Ninja リリース」（2025 年 11 月 6 日）、日本経済新聞、日経 xTECH
- gBizINFO（法人番号 1010401120469）、IT 導入補助金 2021 資料 PDF、VOIX

－ 本レポート了 －

本レポートは 2026 年 8 月 9 日時点の公開情報に基づいて作成されたものであり、各サービスの仕様・料金・実績は変更される可能性があります。導入判断にあたっては、必ず各社の最新の一次情報をご確認ください。